

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会

推進かながわアクションプログラム

改定版

(案)

令和2年2月

神奈川県

～目次～

取組分野・施策等の体系	1
-------------	---

I 大会成功に向けた取組み

1 推進体制の整備

(1)大会に関する総合調整とオール神奈川としての推進体制の整備	3
---------------------------------	---

2 東京 2020 大会の機運醸成に向けた取組み

(1)大会に向けた機運の醸成	5
----------------	---

(2)事前キャンプの受入	12
--------------	----

(3)オリンピック・パラリンピックの意義の理解促進	16
---------------------------	----

3 東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

(1)江の島（湘南港）開催に向けた整備	19
---------------------	----

(2)交通・輸送対策	21
------------	----

(3)地元や湘南港利用者への対応	24
------------------	----

(4)セーリングの普及	26
-------------	----

4 東京 2020 大会・その他の県内開催競技に向けた取組み

(1)関係自治体と連携した大会の準備	30
--------------------	----

Ⅱ 大会を契機としたかながわプログラム

1 神奈川のおもてなし

- (1)国内外からの来県者への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
- (2)治安・防災対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
- (3)健康・医療対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- (4)交通網の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
- (5)バリアフリー対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

2 国際観光地としての魅力向上・発信

- (1)観光客誘致・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
- (2)観光の魅力づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
- (3)観光の基盤づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

3 神奈川から魅せる文化

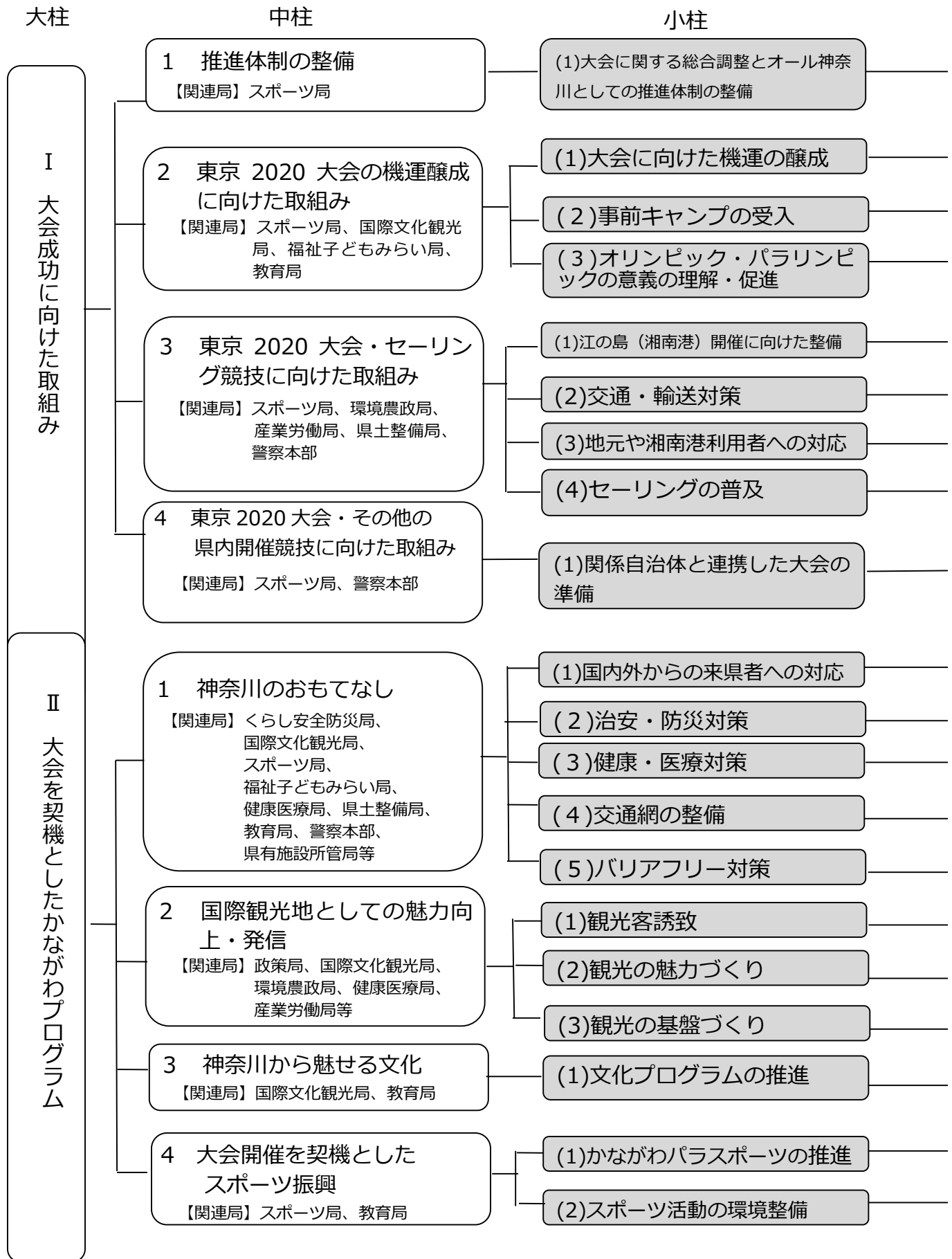
- (1)文化プログラムの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

4 大会開催を契機としたスポーツ振興

- (1)かながわパラスポーツの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
- (2)スポーツ活動の環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

本文中の計画については、令和2年度
予算審議中のため、全て予定です。

取組分野・施策等の体系



主な取組事項

①組織委員会などの関係機関との総合調整、②東京 2020 大会に向けた県内推進体制の整備

P. 3

①各種機運醸成の取組み、②聖火リレー等に関する取組み、③ライブサイトに関する取組み、
④シティドレッシングに関する取組み、⑤文化オリンピアドに関する取組み、⑥オリンピック・パラリンピアン
の育成支援

P. 5

①事前キャンプの受入、②ホストタウンの取組み

P.12

①県民へのオリンピック・パラリンピックの意義の理解促進、②学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進

P.16

①会場の設営に関する組織委員会との調整、②港湾施設等の整備、③レース海面案の調整、④大会中の組織委員会との連携

P.19

①交通・輸送対策に係る関係団体等との調整、②選手・大会関係者の輸送対策、③観客等の輸送対策、
④警備・交通対策等、⑤観客等の歩行ルートのバリアフリー化

P.21

①既存艇の移動、②漁業関係者との調整、③地元住民団体等との連絡調整

P.24

①各種普及活動の実施、②神奈川県選手を中心とした日本代表チームへの支援、
③セーリングワールドカップシリーズ江の島大会の支援、④セーリング競技開催記念モニュメントの設置等

P.26

①関係自治体と連携した競技の開催準備等、②警備・交通対策等

P.30

①おもてなしを担うボランティア等の育成・配備、②多言語支援センターかながわによる情報提供、
③医療通訳派遣システム事業の推進、④外国人向け医療情報の提供、⑤かながわ国際ファンクラブの推進、
⑥コミュニケーション支援ボランティアの育成、⑦外国語教員等を対象とした研修の推進、⑧グローバル人材の育成、
⑨人権啓発事業の推進

P.32

①治安対策の推進、②テロ対策訓練、③防災対策

P.38

①熱中症対策、②感染症対策、③公共的施設における受動喫煙防止対策、④未病改善の取組みの普及啓発

P.41

①幹線道路等の整備

P.44

①バリアフリーの街づくりの推進、②県有施設のバリアフリー化

P.46

①県内を周遊するツアーの企画・商品化、②戦略的プロモーションの推進、③県産品の魅力向上・発信、
④県産農林水産品の発掘及び販売促進

P.48

①観光の核づくりの推進、②かながわシープロジェクトの推進、③三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進

P.51

①観光案内・観光情報の多言語化、②外国人観光客の動態・ニーズ分析、③Wi-Fi・トイレ等の整備、
④ホテルの誘致、⑤宿泊施設の多様化の取組み

P.55

①文化プログラムの推進

P.57

①「かながわパラスポーツフェスタ」等の実施、②学校におけるかながわパラスポーツの普及、
③障がい者スポーツの普及推進、④健康・生涯スポーツの普及推進

P.60

①体育センターの再整備、②相模湖漕艇場の整備、③伊勢原射撃場の整備、④山岳スポーツセンターの整備、
⑤ナショナルトレーニングセンター拡充施設の誘致、⑥3033 運動の推進、⑦県内中学校・高等学校における部活動活性化、
⑧子ども☆キラキラプロジェクト、⑨スポーツボランティアの育成

P.63

I 大会成功に向けた取組み

1 推進体制の整備

(1) 大会に関する総合調整とオール神奈川としての推進体制の整備

(ねらい)

東京 2020 大会を成功させるため、関係機関と連携・協力するとともに、地域の市町村や関係団体と一体となった取組みを展開します。

(取組内容)

円滑な大会実施のため、組織委員会などの関係機関との調整を図るとともに、県内推進体制を整備します。

① 組織委員会などの関係機関との総合調整

○東京 2020 大会の円滑な実施に向けて、組織委員会（※）などの関係機関と連携・調整を行います。

これまでの主な取組みと実績

・組織委員会などの関係機関と密に連携をとり、調整を実施

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○大会に関する総合調整 (スポーツ局)					
	大会に関する総合調整(関係機関等との連絡調整)				

(※) 組織委員会・・・公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

② 東京 2020 大会に向けた県内推進体制の整備

○東京 2020 大会に向けて、庁内に設置した「神奈川県ラグビー・オリパラ・スポーツ施策総合推進本部」により、推進を図ります。

○県、市町村、関係団体で構成する「ラグビーワールドカップ 2019™及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議（ラグビー・オリパラ神奈川応援団）」を設置しました。市町村や関係団体と一体となり、オール神奈川で推進を図ります。



ラグビー・オリパラ神奈川応援団総会

これまでの主な取組みと実績

- ・神奈川県ラグビー・オリパラ・スポーツ施策推進本部会議を7回開催
- ・7月 11 日に、第4回ラグビー・オリパラ神奈川応援団を初めて横浜市のラグビーワールドカップ 2019™東京 2020 オリンピック・パラリンピック横浜開催推進委員会と合同開催、両大会の成功に向け、ラグビーワールドカップ 2019™に係る取組説明等を行ったほか、オリパラ開催会場自治体の首長がそれぞれの自治体で行う機運醸成イベント等を紹介

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○オール神奈川としての 推進体制の整備 (スポーツ局)					
	「神奈川県ラグビー・オリパラ・スポーツ施策総合推進本部」の設置・運営				
	「ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議（ラグビー・オリパラ神奈川応援団）」の設置・運営				

I 大会成功に向けた取組み

2 東京 2020 大会の機運醸成に向けた取組み

(1) 大会に向けた機運の醸成

(ねらい)

東京 2020 大会を成功させるため、大会全体の機運を醸成します。

(取組内容)

東京 2020 大会に向けた機運醸成のため、各種広報活動を実施します。

また、聖火リレーをはじめとした大会の盛り上げに資する取組みを進めるとともに、県ゆかりのオリンピック・パラリンピアン育成に取り組みます。

① 各種機運醸成の取組み

- ラグビーワールドカップ 2019™の日本中がわき立った盛り上がりや東京 2020 オリンピック競技大会に引継ぎ、県民の心に残る大会にするため、4競技（セーリング、野球・ソフトボール、サッカー、自転車競技（ロード））を中心に大会全体の盛り上げを図る各種イベント等を実施します。
- 神奈川から東京 2020 パラリンピック競技大会を盛り上げるため、「かながわパラスポーツフェスタ」をはじめ、各種イベント等を実施します。
- 多くの県民の皆様が大会に参画していただくため、美化活動やあいさつ運動など、様々な活動を通じて東京 2020 大会をオール神奈川で盛り上げてもらうための取組みを実施します。
- ラグビーワールドカップ 2019™と東京 2020 大会が連続して開催されることを契機に、2018 年度からの3か年をスポーツに関する施策の集中実施期間とし、その期間に両大会の機運醸成等に取り組む市町村（政令市を除く）を、補助制度により支援します。



リオデジャネイロオリンピック・
パラリンピック競技大会出場選手激励会



リオデジャネイロオリンピック・
パラリンピック競技大会祝賀イベント

これまでの主な取組みと実績

- ・東京 2020 大会1年前イベントを横浜市と藤沢市で開催(来場者数約 35,000 人(2回合計))
- ・両大会の機運醸成に資する事業を実施した市町村を支援(2019 年度 11 市町 16 事業)
- ・県内各地のイベントで東京 2020 大会の PR を実施

拡② 聖火リレー等に関する取組み

- 東京 2020 オリンピック聖火リレーを円滑かつ安全に実施するとともに、多くの県民が応援できるように、出発式やランナーの到着を祝うセレブレーション等を実施します。
- パラリンピックを盛り上げるとともに、「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けて、パラリンピック聖火フェスティバルを開催します。

これまでの主な取組みと実績

- ・東京 2020 オリンピック聖火リレーの実施に向けた準備のため、「東京 2020 オリンピック聖火リレー神奈川県実行委員会」(以下「実行委員会」とする)を設置
- ・実行委員会で作成した県内のルート案を組織委員会に提出し、令和元年 12 月 17 日に組織委員会が詳細ルートを公表
- ・実行委員会の下に聖火ランナー有識者による選考部会を設置し、公募及び推薦の聖火ランナー65名と1組のグループランナーを選定
- ・パラリンピック聖火フェスティバルでは、全市町村において採火を行うことが決定

拡③ ライブサイトに関する取組み

- 東京 2020 大会開催時に、大画面での映像放映のほか、ステージイベントやグッズ販売、飲食店などを展開する「ライブサイト」を実施します。

拡④ シティドレッシングに関する取組み

- 県内の祝祭感を高めるため、大会エンブレム等を用いて、県庁舎やパラリンピックライブサイト会場周辺等を装飾するほか、前年度に引き続き江ノ電と湘南モノレールの車両ラッピング等を実施します。
- セーリング競技の機運を盛り上げるため、オリンピック セーリング村(大磯プリンスホテル)から競技会場(江の島)までのルート等の競技会場周辺を、フラッグ等の掲出により装飾します。

これまでの主な取組みと実績

江ノ島電鉄(内外装)、湘南モノレール(外装)の車両ラッピングを実施

- ・ 江ノ電： 令和元年7月 21 日(日)～9月 30 日(月)
- ・ 湘南モノレール： 令和元年7月 21 日(日)～

⑤ 文化オリンピックに関する取組み

○東京 2020 大会の時期に合わせて開催される「東京 2020NIPPON フェスティバル」の組織委員会主催公式文化プログラムに自治体（地方公共団体）として唯一参画します。

○インバウンドやイベント後のレガシーを意識しつつ、東京 2020 大会に合わせて、県立施設での能楽を中心とした公演事業や一流工芸品の展示事業、湘南地域を中心にしたデジタルアート事業、日本大通りでの流鏝馬事業を実施します。

これまでの主な取組みと実績

- ・「東京 2020NIPPON フェスティバル」の組織委員会主催公式文化プログラムのテーマ「共生社会の実現に向けて」について、2019 年度イベントを開催(来場者数 18,232 人)
- ・神奈川の伝統・映像に触れる機会を提供する「神奈川 伝統・映像 アートウォーク 2019」を開催(来場者数 2,519 人)
- ・日本大通りで初めて浮世絵アートの展示「浮世絵アートウィーク 2019」を開催(来場者数 13,221 人)
- ・関東地方の主要公道で初の流鏝馬騎射式「令和元年度 日本大通り流鏝馬騎射式」を開催(来場者数約 4,000 人)

⑥ オリンピアン・パラリンピアンの育成支援

○より多くの県民の皆さんに障がい者スポーツへの関心を高めてもらうため、東京 2020 パラリンピック競技大会において活躍が期待される神奈川県育ちのパラリンピアンの育成・強化の支援等を行います（目標：神奈川県育ちの選手 20 人の出場）。

なお、令和 2 年度からは、支援の対象者を冬季パラリンピック競技大会やデフリンピック競技大会等において活躍が期待される神奈川県育ちの障がい者アスリート等に拡大します。

これまでの主な取組みと実績

- ・東京 2020 大会に「神奈川県育ちのオリンピック」が 40 人出場することを目指し、アスリートや指導者を支援する「アスリート育成事業」(選手 260 名、指導者 19 名、指導者講習会実施団体8団体)を実施
- ・東京 2020 パラリンピック競技大会に「神奈川県育ちのパラリンピアン」が 20 人出場することを目指し、アスリートや指導者を支援する「パラリンピアン育成事業」を実施(選手 139 名、指導者8名)

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○大会に向けた機運の醸成 (スポーツ局、国際文化観光局)			※1	※2	※3
※1…テストイベント ※2…テストイベント ※3…本大会	各種イベント等の実施				
	聖火リレーに関する取組み			ライブサイトの 計画・準備・実施	
				シティドレッシングの 計画・準備・実施	
				文化オリンピックに関する取組み	
	オリンピック・パラリンピアン育成				

聖火リレー

東京2020オリンピック聖火リレーは2020年3月26日に福島県からスタートし、全都道府県で実施されます。

本県は43番目となり、**2020年6月29日(月)～7月1日(水)**に実施されます。

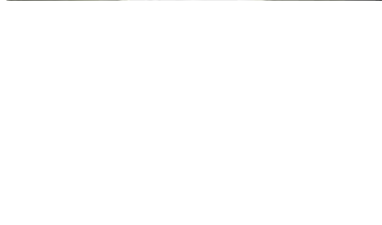
1日目は、箱根町から出発し、伊勢原市、小田原市、大磯町、平塚市、茅ヶ崎市を回り、藤沢市の辻堂神台公園に到着します。

2日目は、三浦市から出発し、横須賀市、鎌倉市、海老名市、厚木市を回り、相模原市の橋本公園に到着します。

3日目は、川崎市から出発し、横浜市内を回り、横浜赤レンガ倉庫が県内の聖火リレーのゴールとなります。

リレー実施中には、聖火ランナーの出発を祝う出発式、区間の途中で行われるミニセレブレーション、1日の最終ランナーの到着を祝うセレブレーションなどを開催し、聖火リレーを盛上げます。

1日目 2020年6月29日(月)	2日目 2020年6月30日(火)	3日目 2020年7月1日(水)
<ul style="list-style-type: none"> 箱根町 箱根駅伝往路ゴール地点付近 → 厚ノ湖遊覧船乗り場付近 伊勢原市 大山 明太子神社* → 伊勢原市営 大山第二駐車場 小田原市 小田原駅南西工業団地付近 → 山江橋バス停付近 大磯町 オリンピック セーリング村予定地前 → 大磯町役場前 平塚市 茅ヶ崎港 → 茅ヶ崎公園野球場付近 鎌倉市 江の島富士船着広場 → 西沢公園付近 藤沢市 湘南高校前校舎 → 辻堂神台公園 <p>*が敷地内では、ケーブルカーによる聖火リレーの実施を予定しています。</p> <p>出発式会場</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱根町・箱根駅伝往路ゴール地点付近 <p>ミニセレブレーション会場</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤沢市・江の島文庫跡広場 <p>セレブレーション会場</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤沢市・辻堂神台公園 	<ul style="list-style-type: none"> 三浦市 みうら・みさき海の駅 → 北緑海東 横須賀市 NTT横浜研究所開発センター正広 → NTT横浜研究所開発センター正広 鎌倉市 るみかぜ公園 → 鎌倉駅西口駅前付近 海老名市 田山公園 → 鶴岡八幡宮 階段上 厚木市 大原記念公園駅前交差点付近 → 海老名中央公園 相模原市 あはみ橋駅前交差点 → 厚木駅南口駅前交差点付近 橋山公園第一駐車場付近 → 相模原市役所前 橋本駅前 → 橋本公園 <p>出発式会場</p> <ul style="list-style-type: none"> 三浦市・三浦ファッショナブル・フォーラム(うらり) <p>ミニセレブレーション会場</p> <ul style="list-style-type: none"> 海老名市・海老名中央公園 <p>セレブレーション会場</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市・橋本公園 	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市 等々力陸上競技場 → 鶴岡中野駅手前 横浜市 横浜国際総合競技場前 → 小川大橋 横浜市 三ツ沢陸上競技場 → 日本生命 横浜北支社 西側付近 横浜市 丸十交差点 → 横浜市役所南側庁舎付近 横浜市 横浜市役所南側庁舎前 → 万福橋交差点 横浜市 万福橋北 → トヨタレンタカー 浜町石川町店前 横浜市 トヨタレンタカー 浜町石川町店前 → 横浜地方合同庁舎手前 横浜市 横浜地方合同庁舎手前 → 横浜赤レンガ倉庫 <p>横浜市役所南側庁舎前付近には、メガサインを使用した聖火リレーの実施を予定しています。</p> <p>出発式会場</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市・等々力陸上競技場 <p>セレブレーション会場</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜市・横浜赤レンガ倉庫



パラリンピック聖火フェスティバル

- パラリンピックの聖火は、パラリンピック発祥の地であるイギリスのストーク・マンデビルで採火された火と、全都道府県で採火された火を集火して生み出されます。この採火と、開催都市東京への火の送り出し（出立）を行う一連のイベントが「聖火フェスティバル」です。
- 神奈川県は、「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けた県民総ぐるみの思いをパラリンピック聖火に込めるため、全市町村で「採火式」を行ったうえで、全市町村の火を一つに集火し、東京へと出立させる「集火・出立式」を実施します。
- 「聖火フェスティバル」で採火された全都道府県の火が東京都で集火された後、パラリンピック開会式までの4日間、都内で聖火リレーが実施されます。

8月14日（金曜日）～16日（日曜日）

各市町村にて採火式

- ・地域の特色を生かした採火式を実施

各市町村がそれぞれの火を持ち寄る

8月16日（日曜日）16～20時（予定）

場所：横浜赤レンガ倉庫

- ・県の火の採火
 - ・集火・出立式
- 「ともに生きる社会かながわ憲章」を朗読、各市町村の採火の様子を紹介
- ・パラリンピック競技体験
 - ・ステージイベント
 - ・キャンドルを使ったワークショップ など

出立

開催都市（東京都）聖火リレー



横浜赤レンガ倉庫



パラリンピックトーチ
(画像提供：Tokyo 2020)

ライブサイト

○ 神奈川県は、組織委員会との共催で、「東京2020ライブサイト」を県内2箇所で開催します。

<開催概要>

	オリンピック期間	パラリンピック期間
実施期間	オリンピック全期間 17日間 (2020年7月24日(金)～8月9日(日))	パラリンピック全期間 13日間 (2020年8月25日(火)～9月6日(日))
開催場所	片瀬東浜海水浴場(藤沢市片瀬海岸1丁目)  競技会場に近く臨場感と潮風を感じられる砂浜で、迫力あるセーリング競技映像等を放映する予定です。 ※海水浴場は通常どおり開設する予定です。	小田原城址公園(小田原市城内)  日本100名城にも選定され、日本の文化と歴史を感じられる場所で、パラリンピックの競技映像を放映する予定です。
内容	競技中継の他、競技体験、出演者によるステージなど東京2020大会を盛り上げるコンテンツを検討中です。	
入場料	無料	
主催	神奈川県 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	

実施時間については現在検討中です。

I 大会成功に向けた取組み

2 東京 2020 大会の機運醸成に向けた取組み

(2) 事前キャンプの受入

(ねらい)

東京 2020 大会に向けた各国・地域の事前キャンプの受入等により、スポーツ振興、国際交流・理解の促進及び大会機運の醸成などを図ります。

(取組内容)

世界のトップアスリートに神奈川の魅力を伝え、県民との交流を実現するため、東京 2020 大会に係る各国・地域の事前キャンプを県内市町村等と連携し受け入れるとともに、国のホストタウン制度を活用し、各国・地域の選手等と地域住民との交流に取り組みます。

① 事前キャンプの受入

○神奈川県は、全国に先駆けて、県内全市町村と連携し「神奈川 2020 事前キャンプ誘致等委員会」を立ち上げ、多言語による「KANAGAWA 事前キャンプガイド」の作成や各国大使館・競技団体への P R、「KANAGAWA 事前キャンプアンバサダー」による働きかけ等を通じ、東京 2020 大会に向けた事前キャンプの誘致に積極的に取り組んできました。これまでの誘致活動の結果、2020 年 1 月現在、県内では 15 か国（エリトリア、英国、リトアニア、ブータン、ブラジル、モルディブ、カナダ、フランス、ミャンマー、オーストラリア、スペイン、ニュージーランド、イスラエル、ポルトガル、エルサルバドル）の事前キャンプ実施が決定しています。

○2020 年に向け、市町村等と連携し、ラグビーワールドカップ 2019™におけるキャンプ地の地域住民と選手の交流を参考に、東京 2020 大会においても県民の心に残る交流事業を実施します。



リトアニアとの協定締結式の様子



ブータンとの協定締結式の様子



ポルトガルとの協定締結式の様子

これまでの主な取組みと実績

- ・藤沢市とともに、ポルトガルパラリンピック委員会(9月)、エルサルバドルオリンピック委員会(1月)と事前キャンプに関する協定を締結
- ・セーリング競技のフランス、スペイン、香港、オーストラリア、ノルウェー、アメリカの選手が県内学校の生徒等と交流(7月、8月)

② ホストタウンの取組み

- 県は、小田原市、箱根町、大磯町等とともにエリトリア、ブータン、ミャンマーの、平塚市とともにリトアニアの、藤沢市とともにポルトガルとエルサルバドルのホストタウンに登録されています。
- 県内では、2020年1月現在、県及び11市3町が、22カ国のホストタウンとして登録されており、さらに県及び4市が3カ国の共生社会ホストタウンとして登録されています。

これまでの主な取組みと実績

- ・リトアニアの選手との交流事業を実施(5月、8月)
- ・エリトリア、ブータン、ミャンマーの留学生等との交流事業を複数回実施

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○事前キャンプの誘致・受入 (スポーツ局、福祉子どもみらい局)					
		事前キャンプアンバサダーによる誘致活動			
		事前キャンプに係る誘致活動			
				事前キャンプの受入	
		交流事業の実施			

事前キャンプ

○東京 2020 大会等、大規模で世界的なスポーツ競技大会が開催される際、各国の選手団が時差や気候などが似た環境でコンディションを調整するためのキャンプを一般的に「事前キャンプ」といい、通常、大会前や選手村等に入村する前の1～2週間行われます。

○事前キャンプを実施するチームの公開練習やアスリートと地域との交流事業の実施等により、スポーツ振興や国際交流・国際理解の進展が期待されるとともに、世界各国のメディアがキャンプ地等取材することにより、地域の知名度向上や観光等の産業振興も期待されます。

<東京 2020 大会に係る県内の事前キャンプ決定状況（2020 年 1 月現在）>

県及び 10 市 3 町が 15 カ国と事前キャンプに関する協定等を締結しています。

	自治体名等	相手国	協定等締結日
1	県・小田原市・箱根町・大磯町・星槎グループ	エリトリア（オリンピック）	2015. 9
2	横浜市・川崎市・慶應義塾大学	英国（オリンピック）	2016. 2
3	県・平塚市	リトアニア（オリンピック）	2016. 10
4	県・小田原市・箱根町・大磯町・星槎グループ	ブータン（オリンピック）	2017. 4
5	相模原市	ブラジル（オリンピック）	2017. 6
6	葉山町	英国（セーリング）	2017. 7
7	小田原市	モルディブ（オリンピック）	2017. 10
8	県・相模原市	カナダ（オリンピック・ボート）	2018. 1
9	鎌倉市	フランス（セーリング）	2018. 4
10	県・小田原市・箱根町・大磯町・星槎グループ	ミャンマー（オリンピック）	2018. 4
11	横浜市・川崎市・慶應義塾大学	英国（パラリンピック）	2018. 5
12	県・平塚市	リトアニア（パラリンピック）	2018. 5
13	小田原市・ヒルトン小田原リゾート&スパ	オーストラリア（7人制ラグビー）	2018. 8
14	逗子市・(株)リビエラ	スペイン（セーリング）	2018. 9
15	厚木市	ニュージーランド（バスケットボール）	2019. 2
16	厚木市	ニュージーランド（ゴルフ）	2019. 4
17	横須賀市	イスラエル（オリンピック・柔道）	2019. 6
18	県・藤沢市	ポルトガル（オリンピック）	2019. 9
19	厚木市	ニュージーランド（車いすラグビー）	2019. 10
20	県・藤沢市	エルサルバドル（オリンピック）	2020. 1

ホストタウン

○東京 2020 大会の参加国・地域と全国の自治体とが人的・経済的・文化的な相互交流を図るとともに、スポーツ立国・共生社会の実現、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、政府が推進している取組みです。

○各自治体は、相手国・地域と 2020 年以降も見据えた交流計画を作成し、ホストタウンとして登録を受けます。交流計画には、大会参加のため来日する選手・関係者等と住民が交流する計画を含んでおり、相手国・地域とのスポーツでの交流だけでなく国際交流や地元の観光振興も期待できます。

<ホストタウンの登録状況（2020 年 1 月現在）>

県及び 11 市 3 町が 22 カ国のホストタウンとして登録されています（合計 13 件）

	相手国	登録自治体名
1	リトアニア	県・平塚市※
2	ポルトガル、エルサルバドル	県・藤沢市※
3	エリトリア、ブータン、ミャンマー	県・小田原市・箱根町・大磯町
4	英国、チュニジア、イスラエル、ベナン、ボツワナ、コートジボワール、モロッコ、ブルガリア	横浜市※
5	英国	川崎市※
6	ブラジル、カナダ	相模原市
7	イスラエル	横須賀市
8	フランス	鎌倉市
9	モルディブ、オーストラリア	小田原市
10	北マケドニア	茅ヶ崎市
11	スペイン	逗子市
12	ニュージーランド	厚木市
13	英国	葉山町



エリトリアとの交流の様子



リトアニアとの交流の様子

※ 共生社会ホストタウンとしても登録。（県・藤沢市はポルトガル、横浜市は英国のみ）

SKY プロジェクト

○神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町及び星槎グループは、2015 年 9 月にエリトリアと、2017 年 4 月にブータンと、2018 年 4 月にミャンマーと東京 2020 大会に向けた事前キャンプに関する協定を締結しました。

○協定に基づき、各国との交流等を通じて、地域におけるスポーツの振興（S）、教育文化の向上（K）及び友好関係を構築（Y）する

「SKY プロジェクト」の各種取組みを進めています。

○これまで、エリトリアやブータンの選手を招き、県内の幼稚園や小学校などを訪問していただいたり、イベント等で各国を紹介する展示を行ったりするなど、関係市町・星槎グループと協力し、SKY プロジェクトを実施しています。



SKY プロジェクトの様子

I 大会成功に向けた取組み

2 東京 2020 大会の機運醸成に向けた取組み

(3) オリンピック・パラリンピックの意義の理解促進

(ねらい)

東京 2020 大会の開催に向けて、オリンピック・パラリンピックの意義を県民に広く伝えるための取組みを推進します。

(取組内容)

県民を対象としたイベントなどにおいて、オリンピック・パラリンピック出場経験者等の講演の実施や、オリンピック出場経験者の派遣などの取組みを進めるとともに、学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進に取り組みます。

① 県民へのオリンピック・パラリンピックの意義の理解促進

- 県民を対象としたイベントなどにおいて、オリンピック・パラリンピック出場経験者等から直接、一人ひとりの個性を尊重し支えあう大切さなどを語ってもらう機会を設けるなど、オリンピック・パラリンピックの意義を県民に広く伝えていきます。
- 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）と自治体が、スポーツを通じた人づくりなどで連携する仕組みである「JOCパートナー都市協定」を締結し、この協定に基づき、国際競技力向上やスポーツ振興などで相互に支援と協力を行います。

これまでの主な取組みと実績

- ・JOCと連携し、2011年から県内中学校31校において、「JOCオリンピック教室」を開催
- ・オリンピック・パラリンピアンとの交流を通じて、オリンピック・パラリンピックの意義を学ぶイベントを開催

② 学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進

- 全ての子どもたちが、運動・スポーツの意義や価値等を理解し、関心を持つことで、主体的に運動・スポーツに参画（「する」「観る」「支える」等）できるよう、かながわらしいオリンピック・パラリンピック教育の推進を図ります。
- オリンピック・パラリンピックをテーマに、スポーツの素晴らしさや体力づくりなどを学ぶことができる学習教材と教員の指導用資料を、全ての学校で活用できるようにしていきます。
- 県立学校及び市町村立学校（政令市を除く）の全校が、オリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校として、組織委員会により「よい、ドン！スクール」の認証を受けたことを契機に、一層、各学校におけるオリンピック・パラリンピック教育を推進します。
- 東京 2020 大会の開催年にあたり、開会式前日までに全ての県立学校でオリンピック・パラリンピック教育の一環として、児童・生徒の心のレガシーとなるような各学校の特色を活かした創意工夫ある「一校一プログラム」を策定し実施することで、オリンピック・パラリンピック教育の更なる推進を図ります。
- 東京 2020 大会の会場観戦を通してスポーツの素晴らしさを体験し、一生の財産として心に残る大会とするため、子どもたちに東京 2020 大会の観戦機会を提供します。



かながわオリンピック・パラリンピック教育学習教材

これまでの主な取組みと実績

- ・「かながわオリンピック・パラリンピック教育学習教材」の活用
- ・トップアスリートによるスポーツ教室の開催(小学校累計32校)

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○オリンピック・パラリンピックの意義の理解促進 (スポーツ局、教育局)					
	イベントにおける普及啓発				
	JOCパートナー都市協定による取組み				
	オリンピック・パラリンピック教育の推進				

オリンピック・パラリンピックの意義

○トップアスリートが世界最高のパフォーマンスを繰り広げるだけでなく、スポーツを通じ、選手をはじめたくさんの人々がそれぞれの「違い」を越え、認め合うことで、平和な社会を目指すことにあります。

JOCパートナー都市協定

○JOCと各都市（都道府県または市）が、トップアスリートの選手強化やオリンピック・ムーブメント（※）推進等のために、相互に支援と協力を行う制度です。

○自治体側はスポーツを通じた人づくり、JOC側はトップアスリートの選手強化やJOCが行うオリンピック・ムーブメント（※）推進事業への自治体の協力など、相互にメリットがあるものとなっています。

○神奈川県は2017年4月に協定を締結し、全国で25番目の締結都市となりました。

< JOCパートナー都市一覧（2019年8月30日現在） >

	締結都市		締結都市		締結都市		締結都市
1	大阪市	8	東京都	15	帯広市	22	福山市
2	長野市	9	北海道	16	秋田県	23	北九州市
3	福岡県	10	札幌市	17	秋田市	24	加賀市
4	福岡市	11	横浜市	18	川崎市	25	神奈川県
5	広島市	12	広島県	19	高崎市	26	埼玉県
6	熊本県	13	兵庫県	20	千葉県	27	士別市
7	熊本市	14	神戸市	21	太田市	28	東京都板橋区
						29	東京都北区



JOCパートナー都市協定締結の様子

※ オリンピック・ムーブメント

「スポーツを通してこころとからだを健全にし、さらには文化・国籍といったさまざまな違いを越え、友情や連帯感、フェアプレーの精神をもって互いを理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」という考え方を広げていく活動

I 大会成功に向けた取組み

3 東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

(1) 江の島（湘南港）開催に向けた整備

(ねらい)

東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技に向けた会場の準備を円滑に進めます。

(取組内容)

江の島で開催される東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技に向けた準備を円滑に進めるため、大会運営主体である組織委員会が行う会場の設営に向けて、連携・協力していきます。

① 会場の設営に関する組織委員会との調整

○江の島で開催される東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技に向けた準備を円滑に進めるため、大会運営主体である組織委員会による仮設建築物の設置等に向けて、連携・協力していきます。

これまでの主な取組みと実績

・組織委員会による仮設建築物の設置工事等と、県施工の恒久施設工事及び湘南港の既存艇移動等のスケジュール調整を実施し、2019 年 12 月から組織委員会が仮設建築物の設置工事に着手

② 港湾施設等の整備

○東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技の円滑な運営を図るとともに、オリンピック後も国際的な大会の円滑な実施を支え、次代を担うセーラーを育成する拠点とするため、艇整備庫や海面監視室等を備えた新たな施設（江の島セーリングセンター）や給油施設の整備等に取り組めます。



江の島イメージ図

○東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技の成功と、湘南港の機能強化や江の島地域の活性化を図るため、江の島大橋の拡幅整備等を行います。

○東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技の開催に相応しい会場を準備するため、江の島島内のトイレの改修や既存施設の補修を行います。

○セーリング会場である湘南港に国内初となる海洋プラスチックごみ回収装置（^{シービン}Seabin）を導入し、オリンピックを契機に多くの方に本県の SDGs の取組みを発信していきます。

○その他、セーリング競技の開催に必要な港湾施設等の整備・改修を行います。

これまでの主な取組みと実績

- ・艇整備庫等を備えた「江の島セーリングセンター」や給油施設の工事を完了させ、2019 年テストイベントにおいて、組織委員会が大会運営に使用
- ・湘南港の機能強化や江の島地域の活性化を図るため、江の島大橋の拡幅整備等を完了
- ・オリンピックの開催に相応しい会場を準備するため、江の島島内のトイレ改修に着手したほか、マリーナ港区の電気設備の補修・Wi-Fi の設置を実施

③ レース海面案の調整

○オリンピックに相応しい競技運営、観戦客への配慮、漁業への影響等を考慮し、レース海面案について関係機関・団体との調整を進めます。

これまでの主な取組みと実績

- ・オリンピックという最高峰の大会にふさわしいレースエリアを確保するとともに、漁業活動への影響ができるだけ少なくなるよう、組織委員会が行うレース海面の調整に、県として、積極的に協力

新④ 大会中の組織委員会との連携

○大会の円滑な運営に向けて、組織委員会が必要とする県内の各種情報について共有する体制を構築します。

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○江の島（湘南港）開催に向けた整備 （スポーツ局、環境農政局、 県土整備局）			※1	※2	※3
※1…テストイベント ※2…テストイベント ※3…本大会	会場の設営やレース海面に関する組織委員会等との調整 港湾施設等の整備 ・江の島セーリングセンターの整備 （2019 年で整備完了） ・給油施設の整備（2019 年で整備完了） ・江の島大橋の拡幅整備（2019 年で整備完了） ・葉山港の船舶保管地改修（2018 年度で整備完了） ・江の島島内のトイレ改修（2020 年本大会までに整備予定） ・海洋プラスチック回収装置（Seabin）の導入（2019 年で導入完了） ・その他、セーリング競技の開催に必要な港湾施設等の整備・改修				
				大会中の組織委員会 との連携体制の構築	

I 大会成功に向けた取組み

3 東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

(2) 交通・輸送対策

(ねらい)

東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技開催時における選手・大会関係者・観客等の円滑で確実な輸送を実現します。

また、島内駐車場の利用制限や一般車両の通行規制等が行われることをふまえて、大会期間中の円滑な輸送と江の島のにぎわいの両立を目指します。

(取組内容)

組織委員会が策定する選手・大会関係者・観客等の交通・輸送対策について、関係団体との連絡調整等を通じ、江の島周辺地域の実情に応じた輸送対策となるよう調整を進めます。また、一般車両の通行規制等の周知を図るとともに、公共交通機関の利用を促す交通対策を推進します。併せて、警備諸対策の推進や、観客等の歩行ルートのバリアフリー化を進めます。

① 交通・輸送対策に係る関係団体等との調整

○会場周辺の交通・輸送対策について、地元自治体や鉄道・バスなどの公共交通機関、商工会議所、観光協会などをメンバーとして設置した「江の島セーリング競技推進連絡会議」において、交通・輸送対策に関する連絡調整や情報交換を行います。あわせて、組織委員会が設置した「神奈川県輸送連絡調整会議」等の場を通じて、交通・輸送対策の調整を進めます。

これまでの主な取組みと実績

- ・江の島セーリング競技推進連絡会議を8回実施。その中で、輸送の検討状況について、組織委員会から地元関係者に対して説明する場を設置
- ・組織委員会が輸送方針策定等のために設置した「神奈川県輸送連絡調整会議」に参画

② 選手・大会関係者の輸送対策

○選手・大会関係者の円滑で確実な輸送を確保するため、江の島周辺地域の実情に応じ、効果的な交通規制等について、最適な走行ルートの選定などについて、組織委員会と輸送対策の調整を進めます。

これまでの主な取組みと実績

- ・オリンピック セーリング村(大磯プリンスホテル)から江の島まで海岸沿いを通る輸送ルート案等の検討に当たり、大会時の輸送対策を策定する組織委員会と連携・協力

③ 観客等の輸送対策

- 多くの観客等の円滑な輸送を確保するため、江の島周辺地域の実情に応じ、最寄駅と競技会場間の歩行ルート（ラストマイル）の設定などについて、組織委員会と輸送対策の調整を進めます。
- ラストマイル上の暑さ対策について、組織委員会や地元自治体等と連携して取り組みます。

これまでの主な取り組みと実績

- ・最寄駅である小田急「片瀬江ノ島駅」、江ノ電「江ノ島駅」及び湘南モノレール「湘南江の島駅」からの輸送ルート案等の検討に当たり、大会時の輸送対策を策定する組織委員会と連携・協力
- ・ラストマイル上の暑さ対策の検討に当たり、組織委員会や地元自治体等と連携・協力

④ 警備・交通対策等

- 東京 2020 大会の成功に向けて、自治体をはじめとする関係機関との連携を強化し、関連情報の収集を図ります。
- テロ等違法事案を防止するための警備諸対策を推進します。
- 開催時期における慢性的な渋滞箇所等の交通状況を調査分析し、路線ごとの交通規制及び会場周辺のエリアによる交通規制等、組織委員会と調整するための最も効果的かつ必要最小限度の交通規制計画案を検討します。
- 隣接都県及び関係機関と連携した、広域的な交通総量抑制対策を推進します。
- 一般車両の通行規制等に関しては、道路情報板や立て看板等を活用し、組織委員会と連携した周知を推進します。
- 県のたよりや県ホームページ、横断幕等を用いて、自動車から公共交通機関へ移動手段の転換を広報します。

これまでの主な取り組みと実績

- ・テストイベントやセーリングワールドカップシリーズ江の島大会に合わせ、公共交通機関の利用促進等について広報を実施
- ・「セキュリティ連絡調整会議」「輸送連絡調整会議」等において関係団体等との情報共有を実施
- ・セーリングワールドカップシリーズ江の島大会の開催に合わせて、江の島の公道において、自動運転バスの実証を実施（17日間、試乗者数 985 人（H30、R1 年度計））

⑤ 観客等の歩行ルートの変りフリー化

- 最寄駅と競技会場間における観客等の歩行ルートについて、誰にでもやさしいバリアフリー化の現状を確認し、必要な対策を進めます。
- 観客等の歩行ルートにおいて、視覚障害者用付加装置やエスコートゾーンの整備を実施します。

これまでの主な取組みと実績

- ・観客等の歩行ルートについて、組織委員会とバリアフリー化の現状を確認
- ・観客等の歩行ルートにおいて、視覚障害者用付加装置やエスコートゾーンを整備

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○交通・輸送対策 (スポーツ局、産業労働局、 県土整備局、警察本部)			※1	※2	※3
	交通・輸送対策に係る関係団体等との調整				
	組織委員会との調整				
	選手・大会関係者・観客等の輸送対策の検討				
	警備諸対策の推進				
	交通規制計画案の検討				
	信号機等交通安全施設整備、更新の検討				
※1…テストイベント ※2…テストイベント ※3…本大会				一般車両の 通行規制等 の周知	
県管理道路の バリアフリー対策 調査				公共交通機関 の利用促進 について広報	

I 大会成功に向けた取組み

3 東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

(3) 地元や湘南港利用者への対応

(ねらい)

江の島で開催される東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技を成功させるため、地元や湘南港を使用しているヨット等の利用者との調整を進めます。

(取組内容)

セーリング競技実施に伴って湘南港を使用しているヨット等の利用者や周辺漁業等に生じる影響について、地元住民団体や利用者、漁業関係者等との調整を十分に行います。

① 既存艇の移動

○競技実施に伴う既存艇の移動等の影響について、説明・意見交換会の実施や移動についての利用者の意向把握、マリナー等の受入に関する調査などを実施し、必要な時期に移動が円滑に行われるよう、調整を進めます。

これまでの主な取組みと実績

- ・競技実施に伴う既存艇の移動等の影響について、個別説明を実施
- ・江の島ヨットハウスで湘南港利用者説明会を5回開催
- ・葉山港管理事務所で葉山港利用者説明会を3回開催
- ・湘南港既存艇の移動を実施

② 漁業関係者との調整

○セーリング競技に伴う漁業の影響への対応について、漁業関係者等と調整を進めます。

これまでの主な取組みと実績

- ・漁業活動への影響ができるだけ少なくなるよう、組織委員会が行うレース海面の調整について、県として、積極的に協力

③ 地元住民団体等との連絡調整

○江の島に生活の基盤がある地元住民団体等と意見交換や情報共有を行い、組織委員会等に地元の意向を伝え、地元と一体となった大会運営を目指します。

これまでの主な取組みと実績

- ・江の島セーリング競技推進会議を開催するなど、連絡調整及び情報交換を実施

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○地元や湘南港利用者への対応 (スポーツ局、環境農政局、県 土整備局)			※1	※2	※3
			既存艇の移動		
		利用者説明・調整			
		漁業関係者・組織委員会等との調整			
		地元住民団体等との連絡調整			
※1…テストイベント ※2…テストイベント ※3…本大会					

I 大会成功に向けた取組み

3 東京 2020 大会・セーリング競技に向けた取組み

(4) セーリングの普及

(ねらい)

江の島で開催される東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技を成功させるため、セーリングの普及に取り組みます。

(取組内容)

東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技開催に向けた機運醸成のため、広報活動の実施及び、神奈川県選手を中心とした日本代表チームへの支援を行います。大会終了後もレガシーを活用したセーリングの普及に努めます。

① 各種普及活動の実施

○東京 2020 オリンピック競技大会のセーリング競技成功に向け、作成したロゴマーク、ポスター、ノボリ及びイメージ動画等を活用し、セーリングの認知拡大を図ります。



江の島セーリングロゴ

○子どもや障がい者など幅広い方々を対象にした海上でのセーリング体験会を実施するとともに、県内の小学生を対象に、セーリング選手として実績のある講師が競技の魅力を伝えたり、ヨットが走る仕組みを模型を使って実験するワークショップ等を盛り込んだ訪問教室等の取組みを実施し、セーリングの普及に取り組みます。



セーリング競技の様子



セーリング海上体験会の様子

これまでの主な取組みと実績

- ・小・中・高校生や障がい者及び親子向けセーリング海上体験会を開催(26日間、計970人)
- ・市民祭りなどの地域住民が多く集まるイベントで、セーリング出張体験会を開催
- ・セーリングイメージ動画及び各種体験会の情報を映画館で放映するとともに YouTube で配信(4劇場)
- ・江の島で練習を始めている海外のセーリングチームと県民、湘南港利用者との交流事業を地元市町と連携を図りながら実施(14回)
- ・県内小学校でセーリング訪問教室を実施(21校、1,409人)
- ・県内各地でオリンピックやワールドカップシリーズのPRを行うセーリングキャラバンを実施(66回)

② 神奈川県の手選手を中心とした日本代表チームへの支援

○国際大会(ワールドカップなど)の江の島開催に協力し、地元と一丸となって盛り上げることで、セーリング人気の向上を図るとともに、日本代表チームが海外の有力選手と同じ場所で、練習や試合を行う機会を増やすことにより、日本代表チームの競技力向上を図ります。

○県内における選手のパ滑な練習実施を支援することにより、神奈川県の手選手を中心とした日本代表チームの競技力向上を図ります。

これまでの主な取組みと実績

- ・日本代表チームが海外の有力選手と練習や試合を行う機会を創出するため、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会実行委員会に参画
- ・日本代表チームにトレーニングルームやミーティングルーム等として江の島セーリングセンターの諸室を提供

③ セーリングワールドカップシリーズ江の島大会の支援

○セーリングワールドカップシリーズは、国際セーリング連盟(ワールドセーリング)が主催するオリンピックに並ぶ世界最高峰のレースで、2018年から2020年にかけて3年連続で江の島ヨットハーバーにて開催されます。

○県は東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技開催に向けた機運醸成の絶好の機会と捉え、大会の運営主体であるセーリングワールドカップシリーズ江の島大会実行委員会に参画し、大会の認知拡大のための広報活動や当日の盛り上げイベントに協力しています。

これまでの主な取組みと実績

「セーリングワールドカップシリーズ江の島大会 2018」の実績

日程	2018年9月9日(日)～16日(日)
参加国数	44の国と地域
参加人数	465人
来場者数	約20,000人
競技種目	オリンピック種目10種目
成績 (日本人選手)	金 1、銀 1、銅 1
イベント (実施日)	①ウェルカムフェスティバル(9月8日(土)) ②開会式(9月9日(日)) ③ワールドカップフェスティバル(9月15日(土)、16日(日))

「セーリングワールドカップシリーズ江の島大会 2019」の実績

日程	2019年8月25日(日)～9月1日(日)
参加国数	46の国と地域
参加人数	496人
来場者数	約25,000人
競技種目	オリンピック種目10種目
成績(日本人選手)	銅 1
イベント (実施日)	① ウェルカムパーティ・開会式(8月25日(日)) ② ワールドカップフェスティバル(8月31日(土)、9月1日(日))

新④ セーリング競技開催記念モニュメントの設置等

○東京2020大会のレガシーとなるモニュメント及び記念銘板の設置などにより、1964年の前回大会のレガシーと合わせて、江の島ヨットハーバーでセーリング競技が開催されたことを伝え、大会の記憶を継承していきます。

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○大会に向けた機運の醸成 (スポーツ局)			※1	※2	※3
	セーリング普及活動の実施				
	日本代表選手の支援				
※1…テストイベント ※2…テストイベント ※3…本大会					
		国際大会（ワールドカップなど）の江の島開催に協力			

I 大会成功に向けた取組み

4 東京 2020 大会・その他の県内開催競技に向けた取組み

(1) 関係自治体と連携した大会の準備

(ねらい)

東京 2020 オリンピック競技大会において、横浜国際総合競技場で開催されるサッカー、横浜スタジアムで開催される野球・ソフトボール及び相模原市、山北町の一部をコースに含む自転車競技ロードレースを成功させるため、関係自治体と協力しながら開催準備や警備・交通対策の準備を進めます。

(取組内容)

関係自治体と連携し、開催準備等を進めるとともに、警備・交通対策を進めます。

① 関係自治体と連携した競技の開催準備等

- 東京 2020 オリンピック競技大会において、横浜国際総合競技場で開催されるサッカー、横浜スタジアムで開催される野球・ソフトボール及び相模原市、山北町の一部がコースに含まれる自転車競技ロードレースに向けた開催準備等を、関係自治体と連携して取り組みます。

これまでの主な取組みと実績

- ・関係自治体と連携し、組織委員会等と調整を実施

② 警備・交通対策等

- 東京 2020 大会の成功に向けて、自治体をはじめとする関係機関との連携を強化し、関連情報の収集を図ります。
- テロ等違法事案を防止するための警備諸対策を推進します。
- 運輸事業者等関係機関、団体等と連携した交通総量抑制対策を推進し、会場周辺の交通円滑化を図ります。
- 組織委員会策定の輸送運営計画 V2 に基づいた諸対策を関係機関と連携の上、検討します。

これまでの主な取組みと実績

- ・横浜市、組織委員会と横浜スタジアム、横浜国際総合競技場及びその輸送に係る検討会を実施
- ・横浜市等と連携し、機動隊や警察署等が参加してテロ対策合同訓練を実施
- ・相模原市、山北町、組織委員会等と自転車競技ロードレースコースに係る4都県合同連絡会を実施
- ・山北町、組織委員会等と自転車競技ロードレースゴール地点である富士スピードウェイ及びその輸送に係る輸送連絡調整会議を実施

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○関係自治体と連携した大会の準備 (スポーツ局、警察本部)	関係自治体と連携した開催準備等				
	警備諸対策の推進				
	交通総量抑制対策				
	交通対策の検討				

Ⅱ 大会を契機としたかながわプログラム

1 神奈川のおもてなし

(1) 国内外からの来県者への対応

(ねらい)

東京 2020 大会の開催に向けて、本県を訪れる人が安心して過ごせる環境づくりを推進します。

(取組内容)

おもてなしを担うボランティア等の育成・配備及び多くの県民が来県者を迎える取組みを展開します。また、多言語支援センターかながわの運営や医療通訳派遣システム事業の活用により、来県外国人等に医療等の円滑な情報提供に取り組むほか、かながわ国際ファンクラブなどを活用したグローバル教育の推進に取り組めます。

① おもてなしを担うボランティア等の育成・配備

- 東京 2020 大会時に、本県を訪れる観光客、観客に観光・交通案内等をするボランティアの配備に向け、県内市町村等と連携して取り組みます。
- 外国人観光客が、安心して快適に、移動・滞在・観光することができる環境を提供するため、おもてなし人材の育成に関する段階別の研修会等を実施します。
- 観光ガイド団体等とガイド志望者が交流できるマッチングの場を提供するほか、県内で活動しているガイドを対象に県観光魅力創造協議会が発掘し、磨き上げた、外国人が魅力を感じる県内の観光資源等を紹介する実地研修を実施することで、県全体でのおもてなし環境の整備に努めます。
- 県内を訪れるろう者に手話を使った基本的な案内や対応ができるよう、民間事業者や関係機関等に対して手話講習の実施を働きかけます。



おもてなし人材の育成に関する研修会の様子



観光ガイド団体等とガイド志望者が交流できるマッチングの場の様子

これまでの主な取組みと実績

- ・全国通訳案内士と観光関連事業者のマッチングイベントを開催(8回、79 社、全国通訳案内士 457 名参加)
- ・県内で活動しているガイドを対象に県観光魅力創造協議会が発掘し、磨き上げた、外国人が魅力を感じる県内の観光資源等を紹介する実地研修を実施(10 回、340 名参加)
- ・おもてなし人材の育成に関する研修会を実施(神奈川県外国人観光案内ボランティア講座 22 回、1,041 名、通訳案内士向け営業力向上セミナー3回、543 名参加)
- ・ラグビーワールドカップ 2019™開催期間中、外国人観光客向けの観光案内ボランティアを配置(ボランティア延べ 292 名参加)
- ・民間事業者等へ手話講習会開催の働きかけを実施(148 社 179 回開催)

② 多言語支援センターかながわによる情報提供

- 日本語を母語としない外国籍県民や来県外国人のため、保健医療・子育て支援・災害などに関し、多言語による情報支援を行う拠点として多言語支援センターかながわを運営します。
- 災害時等において、緊急に提供することが必要な情報を多言語化します。



多言語支援センターかながわの様子

これまでの主な取組みと実績

- ・多言語支援センターかながわの運営(問合せ対応件数 12,415 件)

③ 医療通訳派遣システム事業の推進

- ベトナム語などボランティア通訳者が不足している言語について、通訳者を確保するため、引き続き募集を強化します。
- 多言語支援センターかながわと連携するなど、より確実に通訳派遣を行えるようシステムのさらなる拡充を図り、持続可能なシステムの構築を検討します。



医療通訳派遣の様子

これまでの主な取組みと実績

- ・医療通訳派遣システム事業の実施(医療通訳 25,227 件)

④ 外国人向け医療情報の提供

- 外国人旅行者がスムーズに医療機関にアクセスできるよう、国と連携して訪日外国人旅行者の受入が可能な医療機関の情報を発信します。

これまでの主な取組みと実績

- ・訪日外国人旅行者の受入可否を県内医療機関に確認し、JNTO(日本政府観光局)ウェブサイトで多言語対応可能な医療機関情報を提供(100件)
- ・外国人患者を受入れる拠点的な医療機関を43機関選出

⑤ かながわ国際ファンクラブの推進

○かながわ国際ファンクラブでは、神奈川の魅力的な情報を発信、交換し、人と人との交流を進め、世界と神奈川をつなぐネットワークをつくり、神奈川に親しみを持つ国内外の外国人の方々や、その方々を支える人々とともに活力ある神奈川をつくることを目指しており、ホームページやフェイスブックを活用した情報発信や、KANAFAN STATION の運営、会員相互の交流会の開催等に取り組みます。



かながわ国際ファンクラブの様子

これまでの主な取組みと実績

- ・支援拠点「かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION」において、NPO団体などによるイベント(1,534回)、生活及び就職等に関する相談対応を実施
- ・かながわ国際ファンクラブ会員・サポート会員を対象とした交流会の実施(9回、768人参加)
- ・企業や大学と連携し、留学生の受入拡大を図るための研修会の開催(8回、331名参加)
- ・留学生からの就職相談等を受ける支援拠点(8か所)での支援を実施
- ・上記の取組みなどにより、会員・サポート会員等が7,328人・団体(2018年3月末)から7,906人・団体(2019年12月末)に増加

⑥ コミュニケーション支援ボランティアの育成

○言語だけではなく、文化的背景の相違も理解して外国人観光客や外国籍県民等をサポートできる人材を育成するため、コミュニケーション支援ボランティア養成講座を実施します。



講座の様子

これまでの主な取組みと実績

- ・国際言語文化アカデミアにおける外国籍県民を支援する日本語講座(48講座)や、語学を生かしたコミュニケーション支援ボランティア養成講座(229講座)などの実施

⑦ 外国語教員等を対象とした研修の推進

- 児童・生徒のコミュニケーション能力の向上や多文化理解等を促進するため、外国語教員等を対象とした語学に関する専門的な研修や、授業力向上など専門性を高める研修を実施します。
- 英語教員の英語力や指導力等を一層向上させるため、国際バカロレア認定校の教員を含め、海外派遣研修等の取組みを推進します。
- 小学校の外国語教育において、より専門性を持った人材を育成するため、県内の大学と連携して、小学校教員が中学校英語教諭免許を取得するための認定講習を実施し、小学校外国語教育を推進します。



研修の様子



海外派遣研修参加者

これまでの主な取組みと実績

- ・国際言語文化アカデミアにおける教員に対する専門研修の実施(177回)
- ・小学校教員及び中学校英語教員を対象とした指導力向上研修を開催(小・中 毎年度各2日間、小学校計552名、中学校計439名参加)
- ・横浜市教育委員会及び横浜国立大学との連携による、中学校外国語二種免許状の取得を目指した免許法認定講習に小学校教員を派遣(20名参加)
- ・神奈川大学及び横浜国立大学との連携による、中学校外国語二種免許状の取得を目指した免許法認定講習を実施(計108名参加)
- ・児童・生徒のコミュニケーション能力の向上や多文化理解等を促進するため、外国語教員を対象とした語学に関する専門的な研修や、授業力向上など専門性を高める研修を実施
- ・県立高校英語教員をニュージーランドの語学学校での研修に派遣(約1か月、6名)

⑧ グローバル人材の育成

- グローバル化に対応した教育を推進するため、英語資格・検定試験の活用促進、国際交流の促進、外国語指導助手の全校配置、グローバル教育研究推進校におけるグローバル化に対応した先進的な教育の推進などに取り組み、英語によるコミュニケーション能力を高め、国際的な視野を持ち、多様な価値観を受容できる力の育成を図ります。
- 小学校外国語教育の早期化・教科化に対応するため、一定の英語力を有し、質の高い外国語教育を行う専科担当教員の配置の拡充によって指導体制の充実を図り、小学校外国語教育を推進します。



外国語指導助手による授業

これまでの主な取組みと実績

- ・8,000 人を上限として、県立高校生を対象に外部英語資格検定試験の受験料の半額を県費で負担
- ・県内高校生を教育特使として米国メリーランド州に8日間派遣(10人)
- ・県立高校生を教育特使として台湾新北市に4日間派遣(6人)
- ・外国語指導助手をすべての県立高等学校及び県立中等教育学校に配置
- ・グローバル教育研究推進校(県立高校6校)におけるグローバル化に対応した先進的な教育の推進及び公開研究授業などを通じた取組みの成果の普及
- ・横浜国際高等学校が国際バカロレア認定校として認定され、国際科国際バカロレアコース一期生が入学し、国際バカロレア機構の定める教育課程を開始
- ・小学校英語専科担当教員を県域の小学校に配置(40人)

⑨ 人権啓発事業の推進

○国籍・文化・民族等を問わず、誰もが個人として尊重される地域社会づくりを進めるため、国、市町村、企業、関係団体等と協働・連携して、人権意識の啓発に取り組みます。



ハートフルフェスタの様子



人権メッセージ展の様子



人権教室の様子

これまでの主な取組みと実績

- ・人権メッセージ展の開催(毎年2日間)
- ・ハートフルフェスタの開催(毎年1日間)
- ・湘南ベルマーレとの連携(ホームゲームでの啓発グッズの配布(7,000 個)やブース出展等、保育園での人権教室2か所)
- ・横浜FCとの連携による啓発用クリアファイルの作製・配布(作製・配布数:8,000 枚)
- ・ラグビーワールドカップ 2019 啓発イベントでの人権啓発物資の配布(200 部)
- ・性的マイノリティに係る啓発パンフレットの作製・配布(10,000 部)
- ・性的マイノリティに係る啓発物資の作製・配布(クリアファイル 10,000 枚、付箋 5,600 個)

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○来県者への対応 （国際文化観光局、スポーツ局、福祉子どもみらい局、健康医療局、教育局）					
	おもてなし人材育成のための研修会の企画及び実施				
	民間事業者・関係機関等に対する手話講習の実施の働きかけ				
	多言語支援センターかながわによる情報支援				
	医療通訳派遣システム事業の推進				
	広報媒体を活用し、医療機関の情報を発信				
	民間事業者・関係機関等に対する手話講習の実施の働きかけ				
	かながわ国際ファンクラブの推進				
	コミュニケーション支援ボランティアの育成				
外国語教員を対象とした研修の実施					
グローバル人材の育成					
人権啓発事業の推進					

Ⅱ 大会を契機としたかながわプログラム

1 神奈川のおもてなし

(2) 治安・防災対策

(ねらい)

東京 2020 大会の開催に向けて、本県を訪れる各国の選手や関係者、国内外からの旅行者の安全・安心を確保するため、治安・防災対策を推進します。

(取組内容)

本県の治安対策を推進するとともに、テロ対策の訓練等を実施します。また地震・津波等の防災対策も同時に推進します。

① 治安対策の推進

○東京 2020 大会の開催に伴う関連情報の収集・分析を強化し、県民をはじめ本県を訪れる各国の選手や関係者、旅行者等の安全・安心を確保するための各種対策を推進するとともに、関係機関・団体、企業、地域住民等と緊密に連携し官民一体型のテロ対策を推進します。

また、ラグビーワールドカップ 2019TM開催中に台風 19 号による災害警備を並行して行ったことなどを踏まえ、様々な事態に対応し得る警備体制を確立します。

○サイバー空間の脅威に対処するため、サイバー攻撃の発生を想定した共同対処訓練やサイバー攻撃対策セミナーを実施し、事態対処能力の向上を図るなど、サイバーセキュリティ対策を推進します。

これまでの主な取組みと実績

- ・官民一体となったテロ・災害対策を推進するため、テロ・災害対策神奈川協力会総会を開催し、「大規模警備に伴う交通総量抑制」等について研修を実施
- ・サイバー空間の脅威に対処するため、サイバー攻撃の発生を想定した共同対処訓練やサイバー攻撃対策セミナーを実施
- ・神奈川県サイバーテロ対策重要インフラ事業者等連絡協議会を開催し、サイバー攻撃の脅威や情報セキュリティに関して、民間有識者による講演を実施

② テロ対策訓練

○テロ等緊急事態の発生に備え、迅速的確に対処して被害の拡大を防止するため、テロや大規模災害等を想定して、部隊の対処能力を強化するとともに、関係機関と連携して訓練に取り組みます。



国民保護訓練の様子

テロ対策訓練の様子

これまでの主な取組みと実績

・テロ災害を想定し、関係機関が連携して初動対応や被災者の救出、救護、搬送を行う「神奈川県国民保護共同実動訓練」を実施

	参加機関数	参加者数	実施場所
2016年度	29機関	650名	日産スタジアム、横浜労災病院
2017年度	43機関	1,000名	小田急線片瀬江ノ島駅、江の島ヨットハーバー
2018年度	66機関	1,300名	大さん橋、横浜スタジアム、湘南台駅

・ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 大会等大規模イベント等の県内開催を見据え、関係機関相互の連携強化を図り、テロ災害等への対応力強化を図ることを目的とするネットワーク情報交換会及び図上検討会の実施

	参加機関数	参加者数	実施場所
2018年度	34機関	63名	県庁
2019年度	39機関	82名	県庁

・関係機関と連携し、機動隊や警察署等が参加してテロ対策合同訓練を実施

③ 防災対策

○大規模災害発生時の初動対応における医療救護や救出救助を主体とした実践的訓練「ビッグレスキューかながわ」などを実施し、災害時の応急活動体制を強化するなど、「災害に強いかながわ」を目指した取組みを一層推進します。



ビッグレスキューかながわの様子

これまでの主な取組みと実績

・地域防災力の強化と防災意識の向上を図ることを目的とし、大規模な県市合同総合防災訓練ビッグレスキューかながわを実施

	共催市	参加機関数	参加者数
2016年度	横須賀市	111 機関	約 1,450 名
2017年度	小田原市	143 機関	約 10,000 名
2018年度	海老名市	103 機関	約 6,000 名
2019年度	伊勢原市	129 機関	約 6,500 名

・「ふれあい警察展」などのイベントで防災啓発チラシの配布や震災関連のパネル展示等を実施

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○治安・防災対策 (くらし安全防災局、 スポーツ局、警察本部等)	テロ災害対策、サイバー攻撃対策等の推進				
	災害対応力の強化				

II 大会を契機としたかながわプログラム

1 神奈川のおもてなし

(3) 健康・医療対策

(ねらい)

東京 2020 大会の開催に向けて、本県を訪れる各国の選手や関係者、国内外からの旅行者が、健康に不安を感じることなく滞在できるよう対策を実施します。

(取組内容)

熱中症や感染症の予防対策を進めるとともに、感染症指定医療機関の機能強化、感染症発生状況の調査・集計体制及び検査体制の強化や、患者の搬送等訓練の実施等により、感染症が発生した場合、安全で迅速な対応ができるよう対策を検討します。

① 熱中症対策

- 熱中症を未然に防ぐための予防対策に取り組みます。
- 日本の気候に慣れていない国外からの旅行者に向けて、熱中症予防のポイントや予防方法等について、情報発信するとともに、注意喚起します。



これまでの主な取組みと実績

- ・予防対策として普及啓発活動の実施(市町村・関係機関等へ企業と連携して作成したポスターの配布、県ホームページやラジオによる普及啓発等)
- ・県・市町村熱中症予防連絡会議での周知

② 感染症対策

- 新型コロナウイルス感染症、風しん等国内で感染拡大が懸念される感染症や国内未発生の感染症を流行させないよう予防対策に取り組みます。
- 各国の選手や関係者、国外からの旅行者に向けて、必要に応じて予防方法や注意喚起等、情報提供を行い、感染症対策を進めます。
- 感染症患者を受け入れる感染症指定医療機関の再整備を支援するなど、感染症病棟の機能の充実を図ります。
- 県内で感染症患者が発生した場合に備え、保健所、医療機関等関係機関が連携して感染症発生状況の調査・集計体制及び検査体制の強化を図るほか、患者の搬送等訓練を行い、安全かつ速やかに患者搬送が実施できる体制を整備します。

これまでの主な取組みと実績

- ・新型インフルエンザを想定した訓練を実施(9回)
- ・イベントにおける無料の風しん抗体検査を実施(3回)

③ 公共的施設における受動喫煙防止対策

- 各国の選手や関係者、国内外からの旅行者を受動喫煙による健康への悪影響から守るため、公共的施設における受動喫煙防止対策を進めます。
- 各国の選手や関係者、国内外からの旅行者が、自らの意思で受動喫煙による健康への悪影響を防止できるよう、受動喫煙防止対策の取組みを発信します。



神奈川県受動喫煙防止条例
キャンペーンのロゴマーク

これまでの主な取組みと実績

- ・飲食店などの公共的施設を約 30,000 回(令和元年 12 月末現在)訪問し、受動喫煙防止対策を周知・徹底
- ・各国選手や国内外からの旅行者に対する観光情報誌等を活用した本県受動喫煙防止対策の発信
- ・東京 2020 公認プログラム「受動喫煙防止県民向けイベント」で、東京 2020 大会はたばこの煙のない大会を目指していることを周知

新④ 未病改善の取組みの普及啓発

- 県が行う東京2020ライブサイトなどに、身体測定や未病指標体験ができ、専門家のアドバイスを受けられる「出張未病センター」を出展し、国内外からの来県者に未病改善の取組みを発信します。
- 健康に無関心や無行動な方々が主体的に未病改善に取り組めるよう、ライフステージに応じた未病改善など効果的な普及啓発を進めます。



これまでの主な取組みと実績

- ・かながわパラスポーツビーチフェスタに「出張未病センター」を出展し、来場者に対して身体測定や専門家のアドバイスを実施
- ・ベトナムフェスタや JC サマーコンファレンスなど、県内外からの来場者に向けたイベントでME-BYO BRAND の商品・サービス体験を実施
- ・「ME-BYO」の国際商標登録、国際シンポジウム「ME-BYO サミット」の開催などにより未病コンセプトを発信

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○健康・医療対策 (国際文化観光局、スポーツ局、健康医療局等)					
	熱中症予防の普及啓発・注意喚起				
	感染症対策の推進、各国選手や国外旅行者に対する情報提供、注意喚起				
	公共的施設における受動喫煙防止対策の周知・徹底				
	各国選手や関係者、国内外からの旅行者に対する本県の受動喫煙防止対策の発信				
	未病改善の取組みの普及啓発				

Ⅱ 大会を契機としたかながわプログラム

1 神奈川のおもてなし

(4) 交通網の整備

(ねらい)

東京 2020 大会の開催を受け、道路や鉄道など、交通ネットワークの充実や既存インフラの活用を推進します。

(取組内容)

幹線道路ネットワークの整備を図るとともに、スマートインターチェンジの整備促進などにも併せて取り組みます。

① 幹線道路等の整備

- 自動車専用道路やインターチェンジ・観光地などにアクセスする道路の整備を重点的に進めます。
- 幹線道路ネットワークを最大限活用するため、スマートインターチェンジの整備、局所的な渋滞対策、観光地表記などの分かりやすい道路案内標識の整備に取り組みます。
- 幹線道路の整備に伴い、信号機のLED化、道路標識及び道路標示の高輝度化等交通安全施設の整備を推進します。



国道 129 号戸田交差点



新東名高速道路伊勢原JCT付近

これまでの主な取組みと実績

- ・新東名高速道路「厚木南インターチェンジ」から「伊勢原ジャンクション」までの区間や横浜北線の開通
- ・国道 129 号(戸田立体)、都市計画道路久里浜田浦線などを供用
- ・観光地表記などの分かりやすい道路案内標識の整備を実施

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○交通網の整備 (県土整備局、警察本部)					
	自動車専用道路の整備促進				
	インターチェンジ・観光地などにアクセスする道路の整備				
	スマートインターチェンジの整備				
	局所的な渋滞対策				
	分かりやすい道路案内標識の整備				
	交通安全施設の整備検討・道路管理者との協議				

Ⅱ 大会を契機としたかながわプログラム

1 神奈川のおもてなし

(5) バリアフリー対策

(ねらい)

東京 2020 大会の開催に向けて、段差解消や幅広歩道の整備など、誰にでもやさしいバリアフリーの街づくりを推進します。

(取組内容)

バリアフリーの街づくりを推進するとともに、県有施設のバリアフリー化に取り組みます。

① バリアフリーの街づくりの推進

○道路や公園のほか、商業施設、医療施設などの公共的施設について、国内外からの旅行者を含め、誰もが安全かつ快適に利用できるよう、神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例で定める整備基準への適合を求めます。

○交通・建築関係団体や障がい者団体などから構成する神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議によるバリアフリーフェスタなどの普及啓発事業を行います。

○タクシー事業者や福祉有償運送事業者が、福祉タクシー車両を購入する費用の一部を補助し、障がい者、高齢者や外国人観光客など、誰もが容易に移動できる環境を整備します。



バリアフリーフェスタの様子

これまでの主な取組みと実績

- ・神奈川県バリアフリー街づくり条例に基づく公共的施設に係る事前協議の実施(2016年度から2018年度の間に計1,673件実施)
- ・神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議の開催(7回)
- ・バリアフリーフェスタかながわの開催(年1回開催)
- ・福祉タクシー車両の購入費用の補助(241台)

② 県有施設のバリアフリー化

○県有施設について、神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例の整備基準に沿った施設整備を行うなど、バリアフリー化を進めます。

これまでの主な取組みと実績

・県民ホール等の県有施設において、「手掛け棒」を設置するなど、バリアフリー化を推進

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○バリアフリー対策 (福祉子どもみらい局、県有施設所管局)					
	みんなのバリアフリー街づくり条例に基づく事業者との協議				
	バリアフリー街づくり推進県民会議による普及啓発等				
	福祉タクシー車両の導入促進				
県有施設のバリアフリー化					

II 大会を契機としたかながわプログラム

2 国際観光地としての魅力向上・発信

(1) 観光客誘致

(ねらい)

東京 2020 大会の開催を契機として、観光客の一層の増加を図ります。

(取組内容)

観光資源の発掘・磨き上げや戦略的プロモーションの推進、県産品の魅力向上・発信などを通じて、多くの観光客の誘致に取り組みます。

① 県内を周遊するツアーの企画・商品化

○神奈川ならではの地域資源を磨き上げ、これらの観光資源を盛り込んだ魅力的な周遊ルートを設定します。

○旅行者が、国内外からの来訪者に向けた周遊型・滞在型・体験型ツアー（スポーツツーリズムなど）を企画・商品化する取組みを促進します。



体験型ツアーの例（横浜四季菜園）

これまでの主な取組みと実績

- ・「神奈川県観光魅力創造協議会」における、発掘・磨き上げを行った観光資源を活用した周遊ルートの商品化の促進
- ・神奈川県観光魅力創造協議会の開催年3回、観光資源の発掘累計 2,572 件、モデルコースの作成累計 847 件、商談会の開催年3回、認定分科会の開催年3回（ツアー認定累計 1,103 件認定済み）

② 戦略的プロモーションの推進

○ラグビーワールドカップ 2019™大会時の国内外の観光客の動向を参考に、「神奈川県観光振興計画」に基づき、観光客に神奈川の魅力伝えるなど、国内外の観光客のニーズに合った戦略的なプロモーションを実施します。

これまでの主な取組みと実績

- ・現地観光レップによる情報発信等(中国、台湾、マレーシア、インドネシア、ベトナム、英国、オーストラリア)
- ・海外での観光展出版や商談会等への参加、現地でのイベントの実施 35 回(中国、台湾、マレーシア、インドネシア、ベトナム、英国、オーストラリア、タイ、米国)
- ・現地旅行会社、メディア、学校教員(教育旅行誘致目的)等の招請 34 回(中国、台湾、マレーシア、インドネシア、ベトナム、米国)
- ・ラグビーワールドカップ 2019™ へ向けたプロモーション(ブレディスローカップ開催に合わせたモニターツアー、ラグビー専門誌「Rugby World」等へのメディア掲載、映像制作・放映)
- ・SNSを活用した情報発信(Facebook、Weibo、Twitter、Instagram)
- ・国内からの観光客誘致を図るための県外でのPRイベントの実施(21 回)

③ 県産品の魅力向上・発信

- アンテナショップを拠点に、地域の魅力的な産品の情報を県内外に発信するとともに、新たな「かながわの名産 100 選」を活用したプロモーションなど観光客を県内に呼び込む取組みを推進します。



アンテナショップ「かながわ屋」

これまでの主な取組みと実績

- ・「かながわ名産展」を開催し、「かながわの名産 100 選」に選定されている商品及び新たに人気・話題となっている商品を販売(開催日数 260 日、延べ出店者数 693 社)

④ 県産農林水産品の発掘及び販売促進

- 神奈川を代表する農林水産品のブランドイメージの定着とさらなるイメージアップを図り、販売促進につなげます。
- 潜在的な魅力を持った農林水産品を発掘し、ブランド化に向けて取り組みます。



かながわブランドのロゴ



本県で育成したかんきつ「湘南ゴールド」

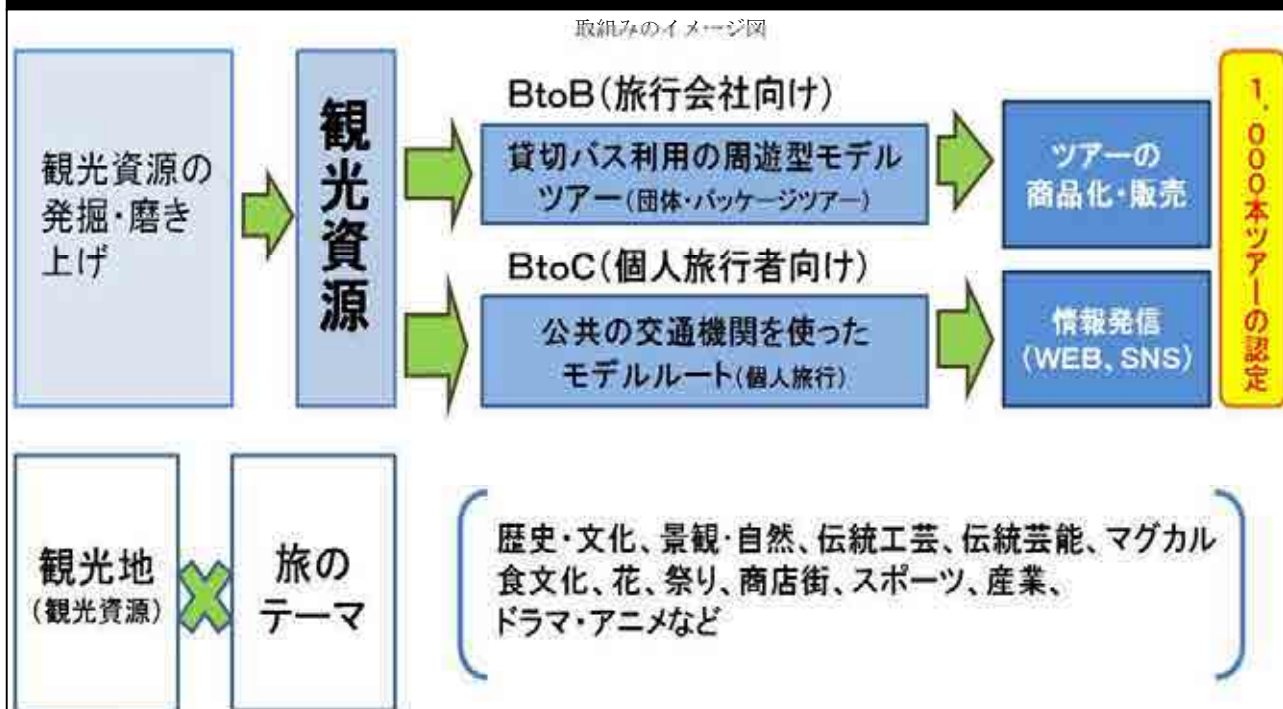
これまでの主な取組みと実績

- ・「三浦はねっ娘会の枝豆」、「浜なし」、「浜柿」等をかながわブランドに登録
- ・かながわブランドキャラバンとして京急グループ、都筑阪急、横浜ベイホテル東急等、県内の量販店、百貨店、飲食店と連携し、通年にわたり販売促進を実施

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○観光客誘致 (国際文化観光局、環境農政局)	○県内を周遊するツアーの企画・商品化 (国際文化観光局)	県内を周遊するツアーの企画・商品化			
	○戦略的プロモーションの推進 (国際文化観光局)	戦略的プロモーションの推進			
	○県産品の魅力向上・発信 (国際文化観光局)	名産 100 選の見直し			
		新名産品を含めたかながわ産品の一層の魅力発信、販路開拓			
	○県産農林水産品の発掘及び販売促進 (環境農政局)	代表的な県産農林水産品のブランドイメージの向上、さらなる販路拡大			
		潜在的な農林水産品の発掘とブランド化に向けた取組み			

県内を周遊するツアーの企画・商品化の取組み



○県が旅行業団体、宿泊関係団体、交通事業者等と協議会を設置し、発掘した地域の観光資源を周遊する滞在型・体験型のツアーや、観光関連事業者の提案するモデルルート等を認定することにより、1,000件のツアーの企画・商品化を推進・強化していきます。

○本協議会は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議の観光部会としての機能を担うものです。

Ⅱ 大会を契機としたかながわプログラム

2 国際観光地としての魅力向上・発信

(2) 観光の魅力づくり

(ねらい)

東京 2020 大会の開催に向けて、地域資源を活かした地域活性化を推進します。

(取組内容)

横浜・鎌倉・箱根に次ぐ国際観光地の創出を目指す「観光の核づくり」を推進します。また、神奈川の海に多くの観光客を呼び込む「かながわシープロジェクト」や、「三浦半島魅力最大化プロジェクト」を推進することにより、観光の魅力づくりに取り組みます。

① 観光の核づくりの推進

○横浜・鎌倉・箱根に次いで、海外にも強力に発信できる魅力的な観光地を創出するため、企業や市町村などから、その実現のための構想やプロジェクトを募集し、有識者を含む「アドバイザリー委員会」による助言を得ながら、優れたものを新たな観光の核づくりの構想地域として 2012 年度に認定しました。

認定地域では、地域の特徴ある資源を活用し、地元の盛り上がりとともに、民間資本の投資を誘引するよう取り組んでいます。

○今後は、国際観光地の創出に向けたネクストステージとして、3 地域における民間事業者と連携した主体的な取組み等に対して支援していきます。



神奈川県作成 PR パンフレット



神奈川県作成各地域 PR 動画

これまでの主な取組みと実績

・「新たな観光の核づくり促進交付金」を活用して「新たな観光の核づくり」地域における先導的事業を実施(5市町 10 事業を支援)

② かながわシープロジェクトの推進

○民間の自由な発想や斬新なアイデアを取り入れて神奈川の海を盛り上げるというコンセプトのもとに、2014年度に民間の様々な分野のメンバーから構成された「かながわシープロジェクト・プロデュース会議」が設置され、報告書が取りまとめられました。

この報告書の中で示された方策に沿って、マリンスポーツを楽しめる環境を整備するとともに、その魅力や海の楽しみ方をパッケージにして発信する「Feel SHONAN」キャンペーンを展開し、国内外から多くの観光客を呼び込みます。

これまでの主な取組みと実績

- ・Feel SHONANウェブサイト・SNSの内容充実
- ・ヨットフェスティバル「ENJOY 海 KANAGAWA」を実施
- ・海洋ツーリズムを展開するため、海上タクシー実証実験を実施

③ 三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進

○三浦半島らしさにこだわった地域活性化策を講じて、三浦半島地域の人口減少対策に取り組むため、県と三浦半島の4市1町が連携して、2016年3月に「三浦半島魅力最大化プロジェクト」を策定しました。

このプロジェクトの方向に沿って、地方創生の取組みを重点的に展開し、変化に富んだ海岸線や豊富な歴史的文化遗产、農水産業など、三浦半島地域の潜在的な資源の魅力を磨き上げ、三浦半島全体の新たな活力を生み出します。



自転車のマイルストーン（湘南国際村）

これまでの主な取組みと実績

- ・ウインドサーフィンワールドカップの誘致
- ・三浦半島の「食」の魅力に着目した「三浦半島はイタリア半島プロジェクト」の登録制度を実施（参加店舗数 29 店舗）
- ・「自転車半島宣言」に基づく、自転車を活用した回遊性の向上

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
○観光の魅力づくり (政策局、国際文化観光局等)					
	観光の核づくり構想の推進				
	海の魅力の発信、海の魅力づくりの推進				
	三浦半島の地域資源の魅力増加				

新たな観光の核づくり

○神奈川県では、城ヶ島・三崎地域、大山地域、大磯地域を新たな観光の核づくりの構想地域として認定し、その実現に向けて地域を盛り上げ、地元と一体となって、新たな観光地づくりを進めています。

2014年度には、「新たな観光の核づくり等促進交付金」を創設し、2019年度まで、それぞれの構想において先導的な役割を果たす事業に対して重点的な支援を行います。

○2020年度からは、国際観光地の創出に向けたネクストステージとして、3地域における民間事業者と連携した主体的な取組み等に対して支援していきます。

【交付決定事業】

2014：7事業 68,000千円

2015：6事業 75,000千円

2016：4事業 75,000千円

2017：7事業 44,640千円

2018：7事業 58,020千円

【交付金で整備したものの例】



葉巻型ベンチ（大磯）



こま参道の手すり（大山）



ハイキングコース
（城ヶ島）

かながわシープロジェクト

○2014 年度に民間の様々な分野のメンバーから構成された

「かながわシープロジェクト・プロデュース会議」が設置され、計 8 回の会議が開催されました。

○会議で出された様々な意見やアイデアは、報告書に取りまとめられ、当面、次の 6 つの方策に沿って、神奈川の海の盛り上げにつながる具体的な取組みを進めていくべきとの方向性が示されました。



<報告書で示された 6 つの方策>

方策Ⅰ： 海外に向けたPRの強化
方策Ⅱ： 湘南ブランドの再構築・活用
方策Ⅲ： 漁業とマリンスポーツの新たな関係の構築
方策Ⅳ： マリンスポーツの裾野拡大
方策Ⅴ： 海辺のライフスタイル・カルチャーの打ち出し
方策Ⅵ： 漁港の多目的利用

○現在、上記 6 つの方策に沿って、「Feel SHONAN」をキャッチフレーズにしたウェブサイト・SNSなどによる神奈川の海の魅力の発信、マリンスポーツをはじめとした SHONAN の海の魅力と特性を組み合わせたイベントの実施、県内各地のマリーナにおけるヨットフェスティバルの開催、クルージングツアー、海上タクシーなど神奈川の海からしか見ることのできない景観を観光コンテンツとして活用した新たな観光（海洋ツーリズム）の展開などの取組みを進めています。



ヨットフェスティバルの様子

II 大会を契機としたかながわプログラム

2 国際観光地としての魅力向上・発信

(3) 観光の基盤づくり

(ねらい)

東京 2020 大会の開催に向けて、誰でも快適に旅ができる環境づくりに取り組みます。

(取組内容)

観光案内・情報の多言語化を進めるとともに、トイレや Wi-Fi 等の整備、ホテルの誘致などを推進し、観光の基盤づくりに取り組みます。

① 観光案内・観光情報の多言語化

○ラグビーワールドカップ 2019™大会期間中の観光客の動向を参考にしつつ、外国語観光情報ウェブサイトを活用するとともに、周辺の観光情報などを多言語化して、インターネットやパンフレットを活用した情報提供を行うことにより、外国人観光客の周遊性を高め、旅行満足度の向上を図ります。



外国語観光情報ウェブサイト
(Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info-)
<https://trip.pref.kanagawa.jp/>

これまでの主な取組みと実績

- ・外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip -Kanagawa Travel Info-」を開設し、掲載コンテンツを充実するとともに、多言語化を実施
- ・海外に向けたウェブプロモーション実施により、サイトのアクセス数増加(2016 年度:103,321PV、2017 年度:309,200PV、2018 年度:833,173PV、2019 年度:786,450PV[12 月末現在])
- ・多言語観光パンフレット(英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語)を作成し、羽田空港や都内・県内の主要駅・観光案内所・宿泊施設等に配架(累計約 245,000 部配架)

② 外国人観光客の動態・ニーズ分析

○外国人観光客が自国の携帯電話や Wi-Fi 等で通信した際の位置情報を活用し、周遊した地域やルート、季節、時間帯、国籍等の動態分析を行うことにより、ラグビーワールドカップ 2019™大会期間中の観光客の動向を踏まえ、外国人観光客のニーズに応じたプロモーションの実施を目指します。

これまでの主な取組みと実績

・動態分析結果に基づくプロモーションの実施(各種観光展・出展時期の選定及び現地旅行会社への観光資源や周遊ルートの照会等に活用)

③ Wi-Fi・トイレ等の整備

○外国人観光客の受入環境整備を目的として、県有施設及び県内の観光関連施設等における、Wi-Fi 整備や案内板等の多言語化、自動翻訳機整備※、トイレの洋式化等※の取組みの推進を図ります。(※県有施設は除く。)

これまでの主な取組みと実績

・Wi-Fi 整備や外国語表記の整備、トイレの洋式化等の整備及び取組みを補助(28 件)

④ ホテルの誘致

○企業誘致施策「セレクト神奈川NEXT」において、一定の要件を満たす場合に、土地・建物・設備への投資額に対する補助金の交付や不動産取得税の軽減、低利融資により、ホテルの誘致を行います。

「セレクト神奈川NEXT」のロゴマーク



これまでの主な取組みと実績

・企業誘致施策「セレクト神奈川 100」により、ホテルの新設計画を認定(7社)

⑤ 宿泊施設の多様化の取組み

○海外からの旅行者への多様な宿泊ニーズに対応できるよう、引き続き、健全な民泊の推進を図ります。

これまでの主な取組みと実績

・民泊施設に対し適正な運営を指導し、健全な民泊を推進

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○観光の基盤づくり (政策局、国際文化観光局、健康医療局、産業労働局)	観光案内・観光情報の多言語化				
	外国人観光客の動態・ニーズ分析				
	Wi-Fi 整備や案内板の多言語化、トイレの洋式化等				
	「セレクト神奈川100」の実施				
	宿泊施設の多様化の取組み				

II 大会を契機としたかながわプログラム

3 神奈川から魅せる文化

(1) 文化プログラムの推進

(ねらい)

東京 2020 大会を契機として、文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進します。

(取組内容)

市町村や関係団体などと連携しながら、マグカルブランドイメージのもと、神奈川の文化プログラムの推進に取り組みます。

① 文化プログラムの推進

○ラグビーワールドカップ 2019™ 開催期間中に実施した流鏝馬などの文化プログラムには、訪日外国人をはじめ、多くの方に参加していただきました。こうした取組みを生かし、東京 2020 大会中においては、子どもから大人まで、また外国の方にも、本県の文化芸術の魅力に触れていただけるよう、「東京 2020NIPPON フェスティバル」などの事業に取り組むことで、文化プログラムの推進を更に加速させます。

これまでの主な取組みと実績

- ・「共生共創事業」における高齢者や障がい者等が出演する舞台公演をはじめ、「カナガワ リ・古典 in 秦野」、「かながわ短編演劇アワード」、「かながわミュージカルアワード」、「マグカルシアター」など、文化プログラムの先駆けとも言えるマグカル事業を始めとした多彩な公演を県内各地で実施
- ・また、県内の文化芸術に関する公演情報を掲載したイベントカレンダーや県の文化プログラム集である Cultural programs を作成
- ・県や市町村、文化芸術団体等が行う県内の文化イベント等を「神奈川文化プログラム」として認証(認証件数 累計 736 件(2019 年 11 月末))
- ・文化ホールなどで、伝統芸能や舞台芸術等の公演を開催
- ・県立の社会教育施設において、企画展示や講座などを開催

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○文化プログラムの推進 (国際文化観光局、教育局)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京 2020 大会等に向けた神奈川の文化プログラムの実施 ・文化ホール等での公演の開催 				

文化プログラム

- 文化プログラムとは、「オリンピック憲章」に定められ、スポーツ競技とともに開催国の義務となっている文化関連行事です。
- 文化プログラムの実施は、近年、前のオリンピック・パラリンピック大会終了後から次の大会終了までの複数年にわたり取り組まれており、文化芸術に関わるパフォーマンスや展示、舞台公演などが行われます。
- 東京2020大会の大会ビジョンのもと、文化芸術や地域での世代を越えた活動などについて、組織委員会が東京2020参画プログラムとして認証しています。このうちの文化プログラムが、文化オリンピアドです。
- 神奈川の文化プログラムは、2018年1月から実施しています。

マグカル

○マグカル（マグネット・カルチャー）とは、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す県の取組みです。



マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー公演

Ⅱ 大会を契機としたかながわプログラム

4 大会開催を契機としたスポーツ振興

(1) かながわパラスポーツの推進

(ねらい)

東京 2020 大会の開催を契機として、すべての人が自分の運動機能を活かしてスポーツを「する」「観る」「支える」こと＝「かながわパラスポーツ」を推進します。

(取組内容)

「かながわパラスポーツフェスタ」等のイベントを実施するとともに、学校におけるかながわパラスポーツの普及を進めます。また、誰もがライフステージに応じてスポーツに親しむことができるよう、生涯スポーツや障がい者スポーツの普及・推進に取り組みます。

① 「かながわパラスポーツフェスタ」等の実施

○障がい者スポーツについての県民の理解を深め、すべての人がスポーツをする喜びや仲間ができる楽しみを実感できるよう、「かながわパラスポーツフェスタ」を開催するとともに、市町村等が開催するイベント等で障がい者スポーツの体験会等を実施するなど、「かながわパラスポーツ」を推進します。

これまでの主な取組みと実績

- ・「かながわパラスポーツフェスタ」を県内9箇所で開催(参加者 約 8,100 人)
- ・「かながわパラスポーツビーチフェスタ 2019」を開催(参加者数 約 600 人)
- ・誰もが参加しやすいポッチャ大会「かながわポッチャ」を開催(参加者数 583 人)
- ・市町村等が開催するイベント等で障がい者スポーツの体験会等を実施
- ・地域で活動する人材として、かながわパラスポーツコーディネーターを養成(291 人)

② 学校におけるかながわパラスポーツの普及

○県立高等学校等において、パラスポーツのアスリートを招いた体験授業等を実施することによって、「かながわパラスポーツ」への理解促進を図ります。

○県立特別支援学校において、児童・生徒のスポーツに対する意識及び技能を向上させるため、パラスポーツ用具の整備及びアスリート等によるスポーツ教室を開催します。



パラスポーツ体験授業の様子

これまでの主な取組みと実績

- ・パラスポーツの体験授業を実施(小学校累計8校、中学校累計2校、高等学校累計 18 校)
- ・ボッチャやタグラグビー、フロアカーリング等のパラスポーツ用具を整備(県立特別支援学校全 28 校)
- ・アスリート等によるスポーツ種目及びパラスポーツを体験するスポーツ教室を開催(県立特別支援学校全 28 校、累計 370 回)

③ 障がい者スポーツの普及推進

○障がい者がスポーツ活動を行う機会を増やすため、県障がい者スポーツ大会等の各種競技会を開催するとともに、障がい者スポーツ指導員等の障がい者スポーツを支える人材を育成します。

○鎌倉市や民間団体等と協働して、車いすを利用する方などが気軽に砂浜に出てマリンスポーツを楽しむことができるよう、鎌倉海岸にビーチマットとスロープを設置します。

○多くの方に地域で「かながわパラスポーツ」を実践していただくために、市町村、学校、地域のスポーツ関係団体等を対象にパラスポーツの用具を貸出します。



障がい者スポーツの様子

これまでの主な取組みと実績

- ・「神奈川県障害者スポーツ大会」を開催(参加者 4,830 人)、「神奈川県精神障害者スポーツ大会」を開催(参加者 771 人)、知的障がい者が集う「神奈川県ゆうあいピック大会」を支援(参加者 4,126 人)
- ・初級障がい者スポーツ指導員(112 人)及び障害者スポーツサポーター(485 人)を養成
- ・障がい者を対象としたパラリンピック競技体験会「パラスポーツライアルinかながわ」を8回開催
- ・パラスポーツ用具の貸出を実施(77 件)

④ 健康・生涯スポーツの普及推進

○県民の誰もが生涯を通じてスポーツに親しみ、健康で豊かな生活ができる生涯スポーツ社会の実現のため、子どもの遊びの奨励や高齢者に適したスポーツの普及等を通じて、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。また、市町村と連携し、世代を超えてスポーツを楽しめる機会の拡大に取り組みます。

これまでの主な取組みと実績

- ・子どもと高齢者の交流事業や世代間交流イベントなどにレクリエーション指導者を派遣(194 教室)
- ・総合型地域スポーツクラブなどの運営に必要なマネジメント研修の実施(14 回、295 人)、指導者のスキルアップ研修の実施(16 回、444 人)
- ・公益財団法人笹川スポーツ財団が主催するチャレンジデー参加市町への支援(10 市町、延べ 1,135,403 人参加)

実施スケジュール

実施項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
○かながわパラスポーツの推進 (スポーツ局、教育局)	「かながわパラスポーツフェスタ」等の開催				
	小・中・高校における かながわパラスポーツの実施		県立高校等における かながわパラスポーツの実施		
	県立特別支援学校におけるパラスポーツ用具の整備・スポーツ教室の実施				
	県障がい者スポーツ大会の実施・障がい者スポーツ指導員等の育成				
	ライフステージに応じた様々なスポーツ活動の推進				

かながわパラスポーツ

○県では、2015 年 1 月に「かながわパラスポーツ推進宣言」を発表し、パラスポーツを「障がいのある人がするスポーツ」という考え方から一歩進め、「すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えること＝『かながわパラスポーツ』」と捉え、3つの取組みを推進しています。

1 パラリンピアンから学びます

パラリンピアンが自身の運動機能の限界に挑む姿から、体を動かすノウハウや創意工夫、諦めない心、できるようになる喜びを学びます。

2 「かながわパラスポーツ」を実践します

年齢、障がいなどを越えて、スポーツをする喜びや、仲間ができる楽しみを実感できるよう「かながわパラスポーツ」を実践します。

3 パラリンピック競技大会を盛り上げます

「かながわパラスポーツ」を実践することで、2020 年に東京で開催されるパラリンピック競技大会を神奈川から盛り上げていきます。



車いすバスケットボールの様子

II 大会を契機としたかながわプログラム

4 大会開催を契機としたスポーツ振興

(2) スポーツ活動の環境整備

(ねらい)

東京 2020 大会の開催を契機として、誰もが生涯を通じてスポーツに親しみ、健康で豊かな生活ができる生涯スポーツ社会の実現を図ります。

(取組内容)

誰もがスポーツに親しめる環境づくりを実現するため、体育センターなどの再整備を進めます。また、3033 運動、子ども☆キラキラプロジェクト、部活動の活性化などを通して、スポーツを楽しめる機会の創出に取り組みます。また、スポーツボランティアの育成にも併せて取り組みます。

① 体育センターの再整備

○1968 年の開設以来、約 50 年が経過し、老朽化が顕著になっている体育センターについて、県内アスリートの競技力の向上や「未病を改善する」取組み、かながわパラスポーツ推進宣言に則った対応を図るとともに、東京 2020 大会の事前キャンプにも活用できるよう、全ての県民のスポーツ推進拠点として、2020 年3月の完成を目指して再整備を進め、2020 年4月に「スポーツセンター」として開設します。併せて、隣接する総合教育センターと一体的整備を進めます。

これまでの主な取組みと実績

- ・PFI事業は、スポーツ関連施設の建設工事を令和元年度内に完了予定
- ・県直営事業は、陸上競技場スタンド等の改修工事を完了

② 相模湖漕艇場の整備

○東京 2020 大会の事前キャンプや大規模大会を誘致し、相模湖漕艇場を核としたスポーツ・観光拠点づくりに取り組むため、現行の1kmコースから2kmコースへの整備等を進めました。

これまでの主な取組みと実績

- ・2kmのボートコースを整備
- ・浮棧橋・救助ボートの整備
- ・競技艇(男子用シングルスカル 13 艇、男子用ダブルスカル 13 艇、女子用シングルスカル 13 艇、女子用ダブルスカル 13 艇)を更新

③ 伊勢原射撃場の整備

○東京 2020 大会の事前キャンプや全国規模の競技大会の誘致を行うため、ライフル射撃場エアライフル射場の紙標的 26 台を電子標的に更新しました。

これまでの主な取組みと実績

・ライフル射撃場エアライフル射場の紙標的 26 台を電子標的に更新

④ 山岳スポーツセンターの整備

○東京2020大会の実施種目としてスポーツクライミングが採用されたことを契機に、本県の山岳スポーツの更なる振興を図るため、山岳スポーツセンターの既存のリード壁の改修及びスピード壁の新設を行います。

これまでの主な取組みと実績

・リード壁の改修は、改修工事に着手
・スピード壁の新設は、建築工事のための設計を完了し建築工事に着手

⑤ ナショナルトレーニングセンター拡充施設の誘致

○拡充施設の誘致に向け、横須賀市と連携し、関係機関への働きかけなどに取り組みます。

これまでの主な取組みと実績

・ナショナルトレーニングセンター拡充施設横須賀誘致委員会の構成員として誘致活動に協力

⑥ 3033 運動の推進

○市町村や、企業などと連携し、「日常生活の運動化」の考え方の普及に取り組み、1日 30分、週3回、3ヶ月間継続して運動やスポーツを行い、運動やスポーツをくらしの一部として習慣化する「3033（サンマルサンサン）運動」を推進します。

これまでの主な取組みと実績

・運動・スポーツを行うきっかけづくりとする 3033 運動キャンペーンイベントの開催(147 回)
・日常生活の運動化としての階段のぼりをPRする取組みとして「横浜ランドマークタワー・スカイクライミング」を開催(参加者 5,763 人)

⑦ 県内中学校・高等学校における部活動活性化

○参加した誰もが満足できる部活動及びより多くの生徒が参加できる部活動をねらいとして「環境整備の推進」「指導体制の充実」「参加促進」の観点から様々な施策に取り組みます。

○部活動強化支援として、特定の種目ごとに強化拠点校を定め、テクニカルコーチ等の専門的指導者を派遣し、定期的な強化練習会を行うことで、才能ある生徒を発掘するとともに、競技力・表現力向上を目指します。



部活動の様子

これまでの主な取組みと実績

- ・外部の専門的指導者の派遣(安全対策支援累計 58 名、強化支援累計 21 名)
- ・指導者の資質向上を図るための研修会の開催(累計 10 回)
- ・部活動促進(新しいタイプの部活動実践校(モデル校)累計 11 校)

⑧ 子ども☆キラキラプロジェクト

○子どもの時から「未病を改善する」基礎をつくるため、体力・運動能力の向上、運動習慣の確立、生活習慣の改善を目的として、「体力向上キャラバン隊」の派遣や運動習慣カードの配付など様々な取組みを行います。



子ども☆キラキラプロジェクトの様子

これまでの主な取組みと実績

- ・体力向上キャラバン隊の派遣(累計 119 回)
- ・トップアスリートによるスポーツ教室の実施(公立小学校累計 32 校)
- ・運動習慣カードの作成・配付(政令市を除く公立小学校へ全児童分配付)
- ・県内一斉ラジオ体操デーのイベントを開催(累計5回)

⑨ スポーツボランティアの育成

○県民誰もがスポーツに親しめる環境づくりを実現するため、県内で活動しているスポーツ団体を活用したスポーツボランティアの仕組みづくりに取り組むとともに、障がい者スポーツを支える人材を育成します。

これまでの主な取組みと実績

・スポーツボランティア団体と連携したイベントの開催(6イベント)

実施スケジュール

実施項目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
○スポーツ活動の環境整備 (スポーツ局、教育局)	3033 運動の推進					
	かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅢによる取組みの実施					
	子ども☆キラキラプロジェクトによる取組みの実施					
	スポーツボランティアの育成					
	ナショナルトレーニングセンター拡充施設の誘致					
	○体育センターの 再整備 (教育局)	再整備工事の実施				スポーツ施設 供用開始
	○相模湖漕艇場の 整備 (スポーツ局)	2kmコース他の整備の実施				
○伊勢原射撃場の 整備 (スポーツ局)			ライフル射 場の電子標 的への更新			
○山岳スポーツセ ンターの整備 (スポーツ局)				リード壁の 改修 スピード壁の 新設		

体育センター再整備（スポーツセンターの開設）

【主な競技施設等の概要】

○スポーツアリーナ2

- ・ パラスポーツの活動拠点となるアリーナや多目的パラスポーツ練習場を整備します。
- ・ 水泳競技者等の練習拠点となる屋内50mプールを整備します。
- ・ 専門競技種目（ボクシング、フェンシング、ウェイトリフティング）の練習場を整備します。



○宿泊棟

- ・ 競技団体や学校部活動の合宿などが可能となる全室バリアフリーの宿泊施設を整備します。

○球技場・補助競技場

- ・ 球技場2面（クレー、天然芝）のうち、クレー球技場を人工芝化します。
- ・ 補助競技場の走路を全天候型舗装するとともに、インフィールドを人工芝化し、夜間照明設備の設置を行います。

○2020年4月に「スポーツセンター」として開設します。

【完成イメージ】



スポーツアリーナ2



宿泊棟

相模湖漕艇場の整備

【主な整備内容】

○2 kmコースの整備

- ・ 現行の1 kmコースから2 kmのポートコースへの整備をしました。

○浮棧橋の整備

- ・ 老朽化したポート乗艇用浮棧橋の整備をしました。

○救助ボートの整備

- ・ 大会時には審判艇などとして活用する、老朽化した救助ボートの更新をしました。



○ローイングマシーンの整備

- ・ 陸上でトレーニングができるようローイングマシーン 10 台を整備しました。

○競技艇の更新

- ・ 男子用シングルスカル 13 艇、男子用ダブルスカル 13 艇、女子用シングルスカル 13 艇、女子用ダブルスカル 13 艇を更新しました。

伊勢原射撃場の整備

- 事前キャンプや全国規模の競技大会の誘致を行うため、ライフル射撃場エアライフル射場の紙標的 26 台を電子標的に更新しました。

【伊勢原射撃場 エアライフル射場】



【電子標的】

標的に取り付けられたセンサーにより、標的面を通過する弾の通過位置(点数)を瞬時に検出、計算してモニターに表示するシステムです。「ライフル射撃場の公認に関する規程」の変更により、全国大会・国際大会を行う射撃場への設置が必須となっています。

山岳スポーツセンターの整備

○リード壁の改修

既存のパネルとホールドを撤去し、新たなパネルとホールドを設置します。

○スピード壁の新設

スピードクライミング競技3種目のうちのスピード競技に対応したスピード壁を新たに整備します。



リード壁



スピード壁 (イメージ)

ナショナルトレーニングセンター (NTC)

○国の「スポーツ振興基本計画」等に基づき設置された、トップレベル競技者の国際競技力の向上を図るための施設で、現在は東京都北区に「味の素 NTC」が設置されています。

○各競技の専用トレーニング拠点を持つことで国際競技力の向上を図りやすくなり、また、複数競技のトレーニング場を一箇所に集約することで、競技団体間の連携を積極的に推進できます。それにより、一競技団体での強化の限界を超えた成果をもたらすと期待されています。

○味の素 NTC については、屋外や水上競技に係る施設がないなどの理由から、拡充施設の設置が必要となっています。

○味の素 NTC では対応できない競技については、全国各地に「NTC 競技別強化拠点施設」が指定されており、味の素 NTC との連携により、国際競技力向上のためのトレーニング環境を整備しています。

○現在、冬季、海洋・水辺系、屋外系競技を対象とした NTC 拡充施設の横須賀市への誘致を目指し、県は横須賀市と連携して誘致活動を行っています。

3033 (サンマルサンサン) 運動

○県民の皆さんが、スポーツに親しみ、健康で明るく豊かな生活を送っていただけるよう、1日30分、週3回、3ヶ月間継続して運動やスポーツを行い、習慣化していただく運動です。

○県内各地でキャンペーンや講習会等を行っています。



3033 運動の様子



神奈川県

スポーツ局オリンピック・パラリンピック課 調整グループ 電話(045)285-0733(直通)
横浜市中区日本大通 1 丁目231-8588 FAX(045)663-0113
電話(045)210-1111(代表) 内線 2980